

DBJ・JTBF アジア・欧米豪 北海道観光に関する 訪日外国人旅行者の意向調査（第3回新型コロナ影響度特別調査）

【概要】

- （株）日本政策投資銀行（以下、『DBJ』という。）及び（公財）日本交通公社（以下、『JTBF』という。）は、共同で「DBJ・JTBF アジア・欧米豪 訪日外国人旅行者の意向調査（第3回新型コロナ影響度特別調査）」（以下、「訪日外国人旅行者調査」という。）を実施した。本調査は2012年より毎年実施され、2015年からJTBFと共同で実施している。本レポートは、アジア・欧米豪12地域の海外旅行経験者約6,000人を対象に実施したインターネットアンケート（2021年10月5日～10月19日）の調査結果をもとに、北海道及び道内の観光地に関して分析及び取りまとめを実施したものである。
なお、本アンケート調査はオミクロン株拡大前の期間に実施されたものであるため、留意が必要である。

【要旨】

I. 新型コロナ禍での世界の動向

- 新型コロナウイルス感染症（以下、『新型コロナ』という。）の感染者数は、ワクチン接種の普及が進み、世界各国の状況は緩和傾向に向かっていたものの、直近は欧米諸国を中心にオミクロン株が急拡大している。
- 国連世界観光機関（UNWTO）によると、2019年水準まで回復する世界の観光市場の時期について、2024年以降との見立てが多く、引き続き訪日外国人旅行者の回復には時間を要することが見込まれる。

II. 日本のインバウンド観光の動向

- 新型コロナ前までのわが国の訪日外国人観光客数は、政府の積極的なインバウンド客誘致策を背景に、2019年には3,188万人に達し、2011年から約5倍もの増加となった。しかしながら、2019年12月末に中国武漢市で確認された新型コロナの影響により、2020年の訪日外国人観光客数は412万人にまで減少し、2021年以降も引き続き低調な推移となっている。
- 新型コロナ禍においては、政府のGotoキャンペーン等の施策に伴い、国内客を中心に全国・北海道ともに回復の兆しは見えたものの、感染者数の再拡大に伴い、継続的な観光客の確保には繋がらず、日本の観光市場は依然として低調にある。

III. 訪日外国人観光客の動向（訪日外国人旅行者調査より）

- 新型コロナの感染リスクに対する不安は引き続き強いものの、前回調査（2020年12月調査）と比べると、減少傾向にあり、今後6ヶ月の旅行の実施意向は高まる結果となった。なお、海外旅行は近隣国であるほど実施意向が高く、海外旅行は近隣国から徐々に再開される可能性がある。
- 観光旅行したい国・地域として、日本の人気は依然として高く、東アジア・東南アジア・欧米豪ともにトップとなった。日本の観光地のうち、北海道への訪問意向は、東京、富士山、大阪、京都に次いで高い水準にあり、特にアジアからの訪問意向が高いことがうかがえる。
- 海外旅行の予算や滞在日数は、増額および長期化を志向する傾向があることから、消費単価の増加が期待される。北海道で体験したいことについては、「自然や風景の見物」、「桜の観賞」、「伝統的日本料理」、「温泉への入浴」、等が上位にあり、新型コロナ前と同様の傾向が続いている。
- サステナブルな旅行について、全体的に訪問先等のサステナブルな取組を重視する割合が高く、中でもアジアは重視する傾向が強い結果となった。また、サステナブルな取組を行う宿泊施設への予算の増額を6割以上の旅行者が許容する結果となり、サステナブルを付加価値とした消費単価の向上の可能性が見込まれる。

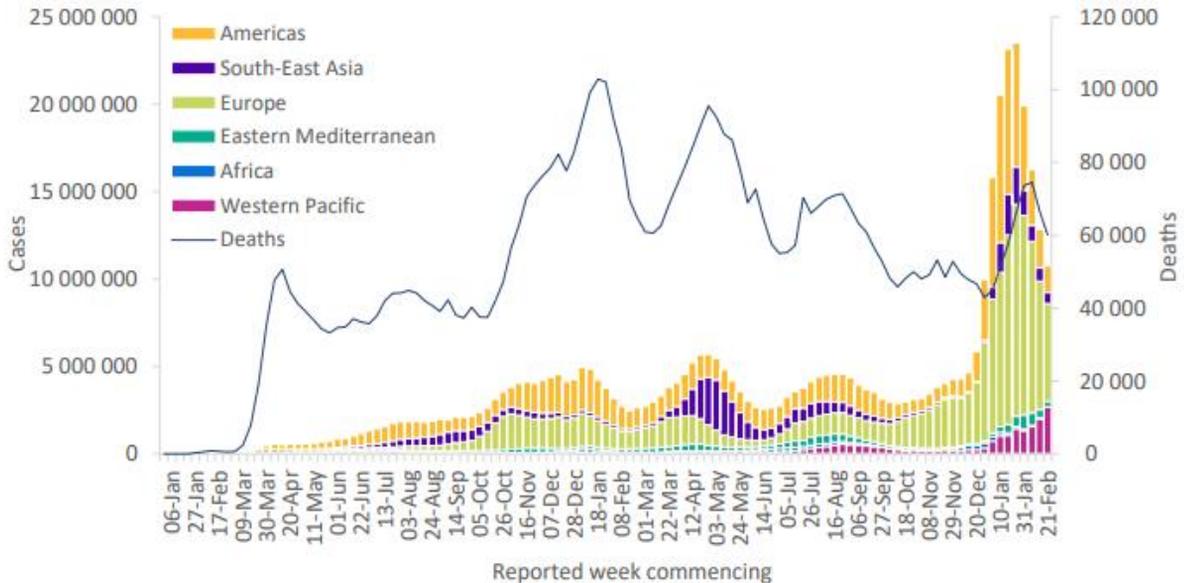
【結び】

- 本調査から、外国人旅行者における訪日需要は依然として高く、北海道の人気も高い水準にあることが確かめられた。引き続き外国人旅行者における北海道旅行意向の維持及び向上を図る為には、北海道ならではのコンテンツ強化や北海道旅行のPR活動に取り組んで行くことが重要である。
- また、サステナブルな取組を志向する旅行者が一定層いることから、サステナブルな取組の推進が他地域との差別化・ブランド力向上に繋がる可能性があり、地域の「自然や生物多様性の保全」、「伝統・文化の保存・継承」、等の取組を北海道全体で先進的に推進・発信していくことが求められる。

I. 新型コロナ禍での世界の動向

1. 地域別感染者数、死亡者数

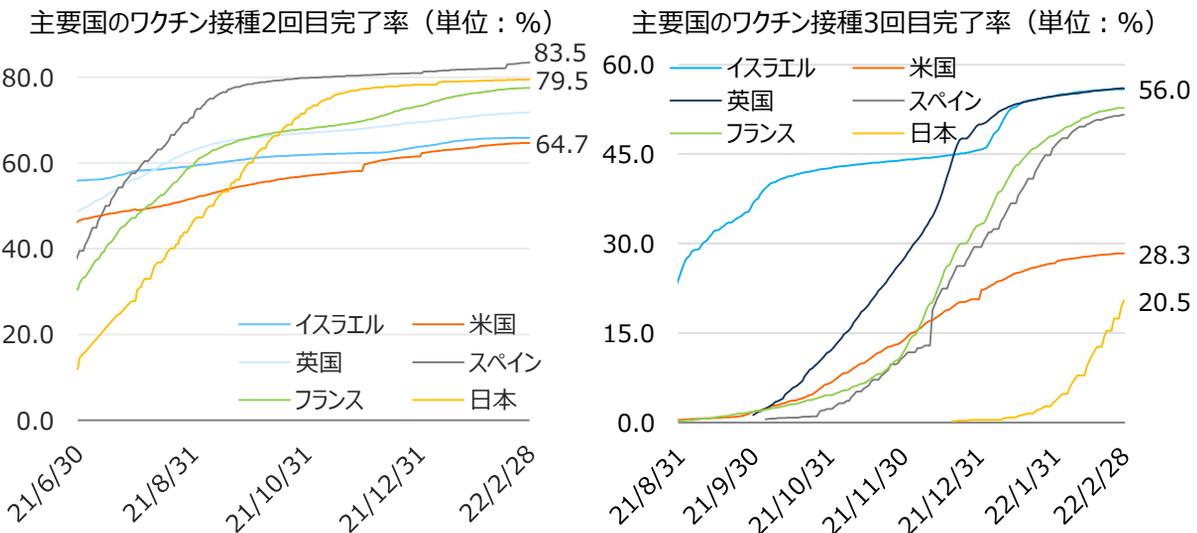
- 世界の感染者数は、各諸国での度重なるロックダウン等の政策の実施により、波はあるものの、欧米諸国を中心に長期的にかつ継続的に発生している。
- 直近は、欧米諸国を中心にオミクロン株が急拡大したことを受け、世界の感染者数は大幅に増加したものの、2022年2月以降は減少傾向にある。



出所: WHO COVID-19 Weekly Epidemiological Update (2022/3/1)

2. ワクチン接種率の推移

- 世界でのワクチン2回接種を終えた人の割合を見ると、欧州主要国は7割以上の水準に達しているのに対し、アメリカは6割台で高止まりしている。
- ワクチンの3回目接種を終えた人の割合を見ると、英国が50%に達するなど、欧州主要国では徐々に接種が進んでいる状況に対し、日本は20.5%に留まっている。

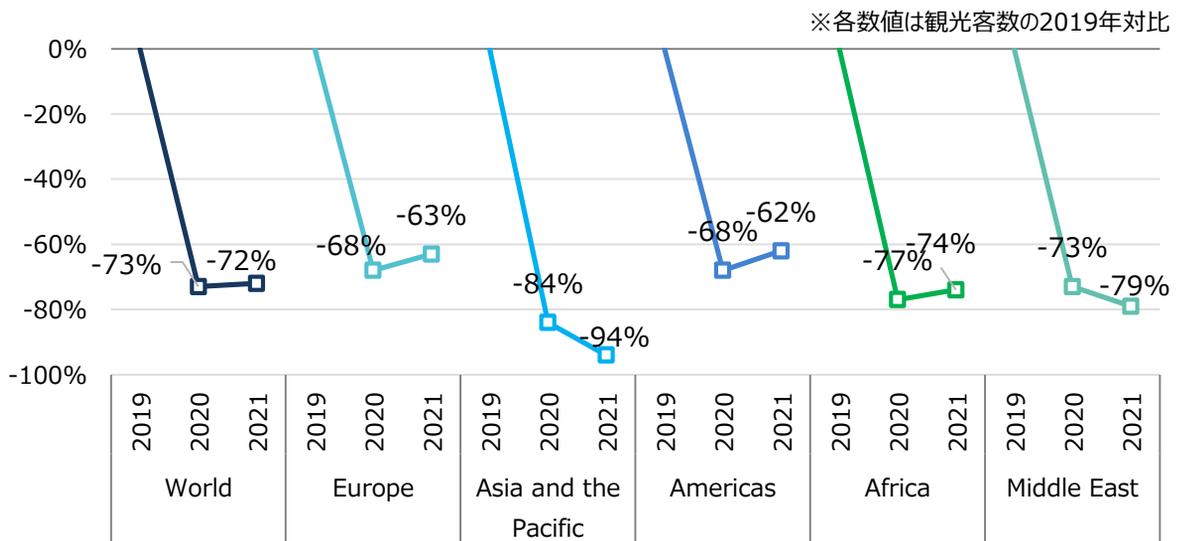


出所: Oxford大学“Our World in Data” (2022/2/28)

3. 新型コロナが国際観光客数に与えた影響

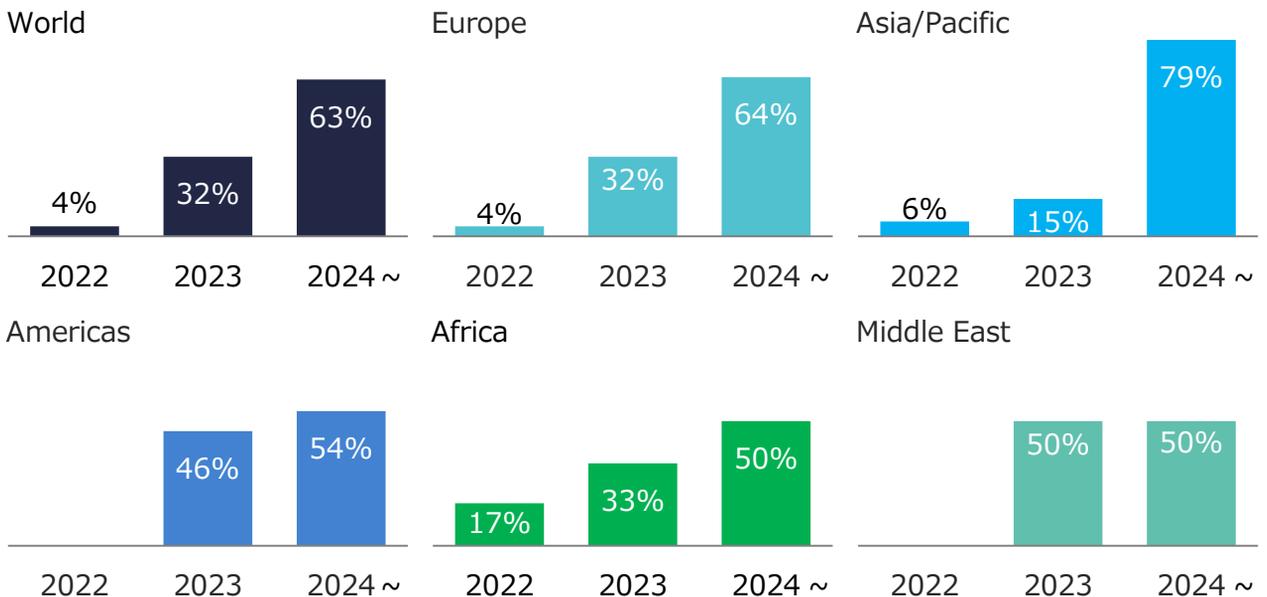
- 新型コロナによる感染者数拡大に伴い、国際観光客数は大幅に減少しており、2020年に引き続き2021年においても全世界で2019年比で72%減少する等、新型コロナの影響が長期的に続いている。特に打撃が大きいのは、アジア・太平洋地域であり、2021年は2019年比で94%減少となった。
- 今後の見通しについて、UNWTOの専門パネルのうち63%が、世界の国際観光市場における2019年水準までの回復は、2024年以降と推測しており、引き続き新型コロナの影響は長期化することが見込まれる。なお、アジア・太平洋地域は最も悲観的に見られており、UNWTOの専門パネルのうち79%が、世界の国際観光市場における2019年水準までの回復は、2024年以降と推測している。

新型コロナが国際観光客数に与えた影響



出所：UNWTO「VACCINES AND REOPEN BORDERS DRIVING TOURISM'S RECOVERY」

国際観光市場の2019年水準への回復見通し

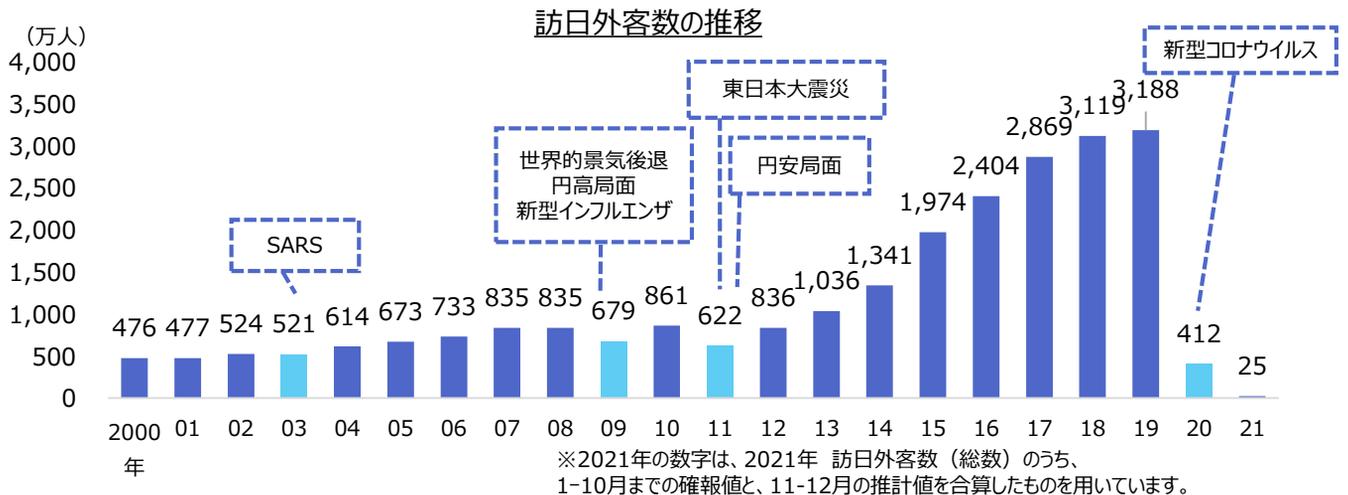


出所：UNWTO「VACCINES AND REOPEN BORDERS DRIVING TOURISM'S RECOVERY」

Ⅱ. 日本のインバウンド観光の動向

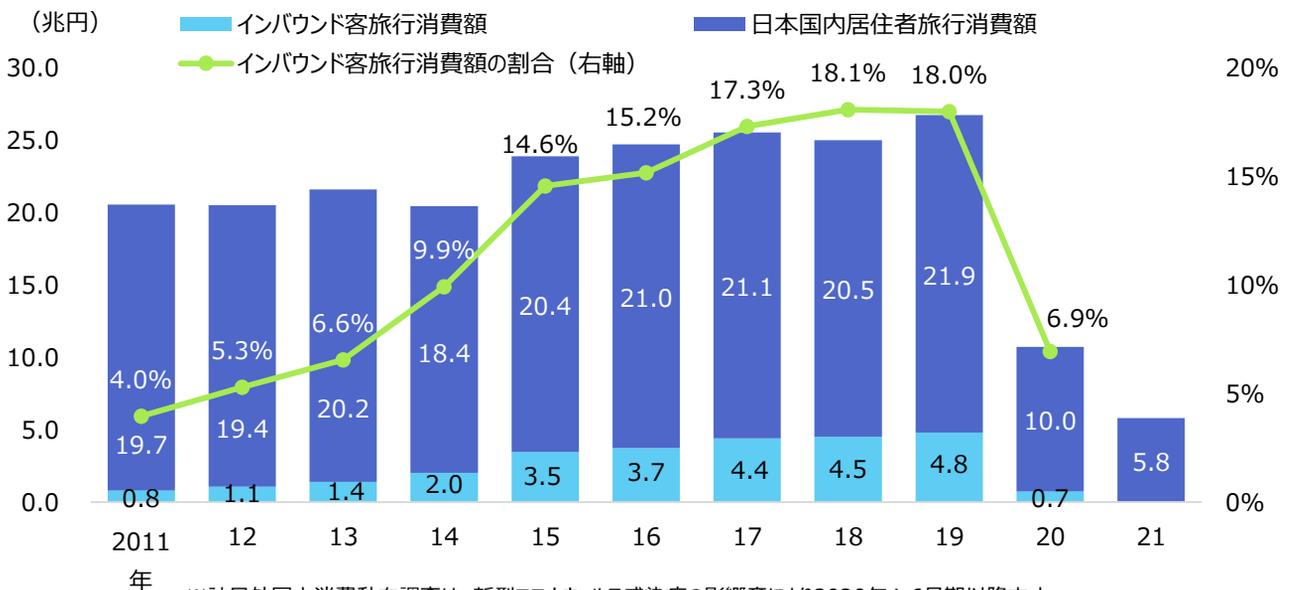
1. 訪日外客数の推移と訪日外国人旅行消費額の推移

- 政府は2013年に「観光立国実現に向けたアクションプログラム」を策定し、外国人旅行者獲得のための訪日プロモーションとともに、訪日ビザの発給用件の緩和や免除、消費税免税の対象拡充・手続き簡素化、航空ネットワークの拡大・強化、出入国手続きの簡素化等のインバウンド政策を展開してきた。
- これら政策と円安の効果により、とりわけ2011年の東日本大震災以降に外国人旅行者は急速な増加を見せ、2011年から2019年までの10年足らずで約5倍に伸長している。しかしながら、2020年は新型コロナウイルスの影響で外国人旅行者数は412万人にまで減少した。
- 外国人旅行者の推移とおおよそ連動し、外国人旅行者旅行消費額も逡増を続け、2019年には過去最高の約4.8兆円にまで成長を遂げたが、2020年は新型コロナウイルスの影響を受けて、7,446億円まで落ち込んだ。



出所：日本政府観光局（J N T O）

訪日外国人旅行消費額の推移

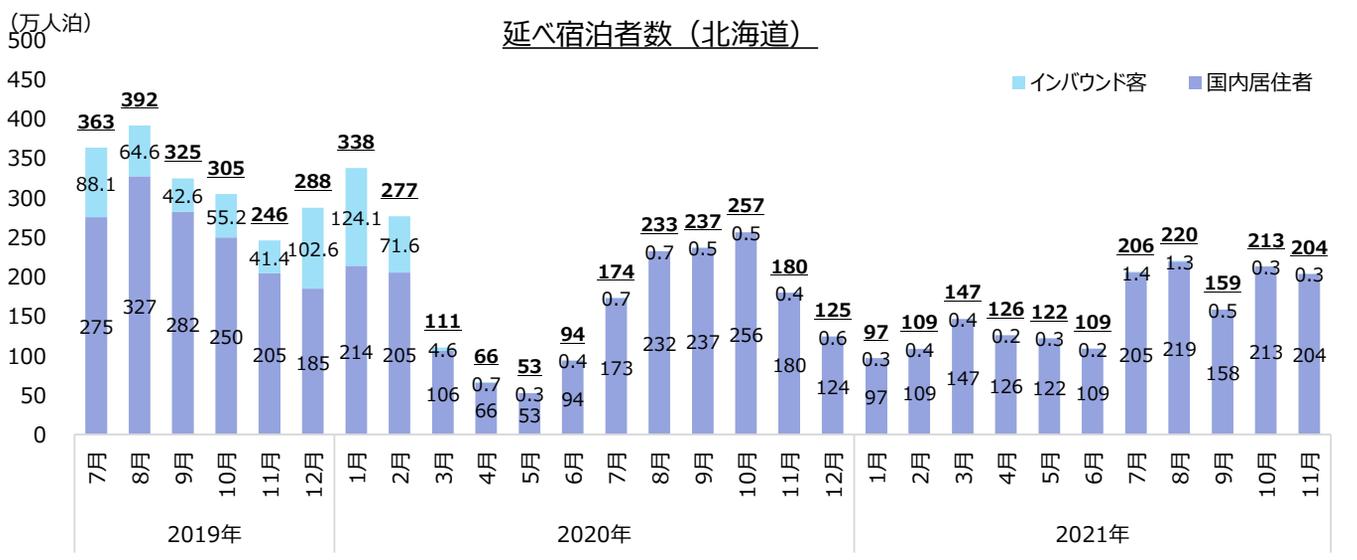
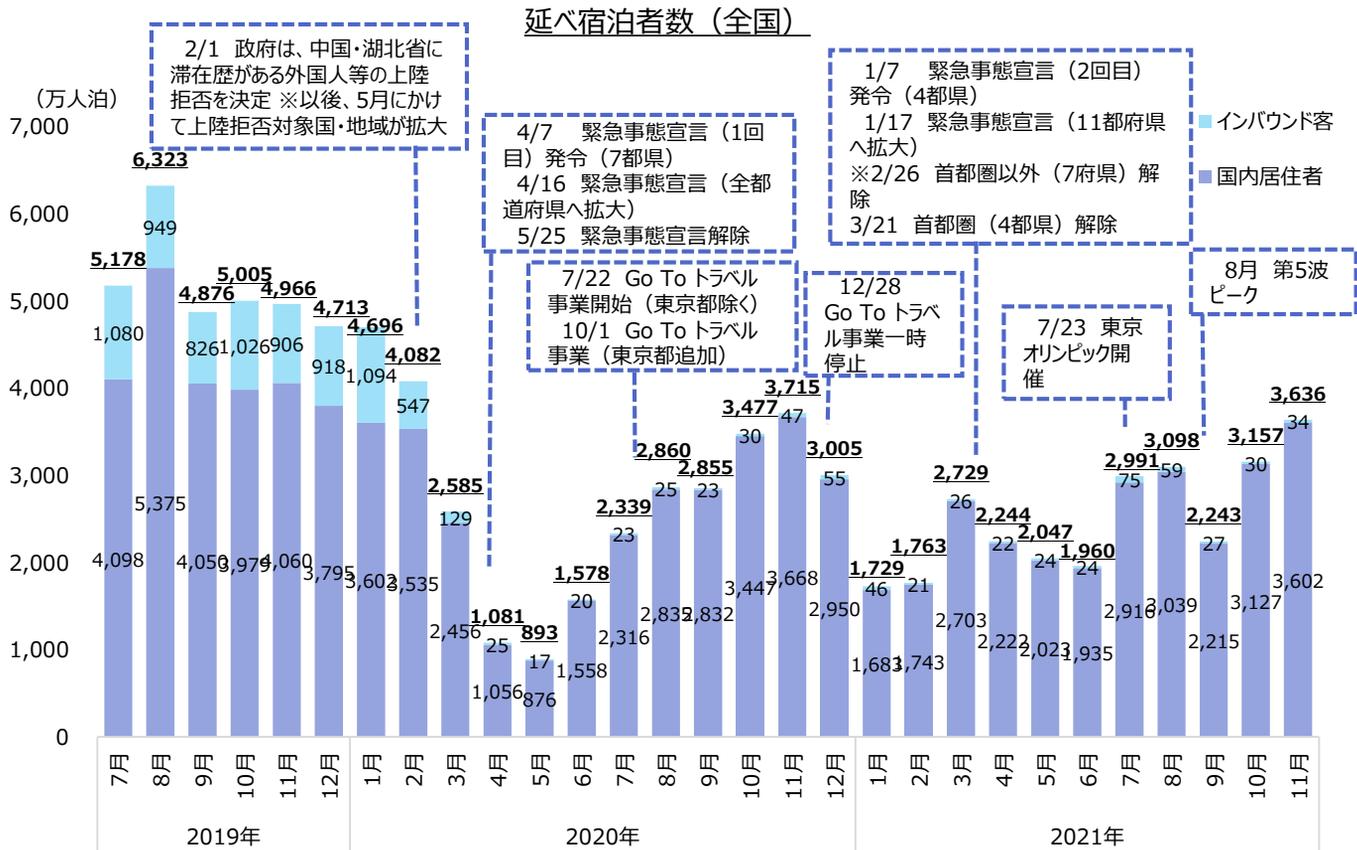


※訪日外国人消費動向調査は、新型コロナウイルス感染症の影響意により2020年4-6月期以降中止。このため、2020年におけるインバウンド客の旅行消費額の年間値は2020年1-3月期の全国調査結果を用いて試算されたものであり、2021年におけるインバウンド客の旅行消費額の統計は存在しない。また、2021年の国内居住者旅行消費額は、2021年旅行・観光消費動向調査の1-3月期、4-6月期、7-9月期(速報値を用いて試算されたもの。

出所：観光庁「旅行・観光消費動向調査」「訪日外国人消費行動調査」

2. 新型コロナ前後の延べ宿泊者数（全国・北海道）

- 全国の延べ宿泊者数は、2019年下期において5千万人程度で推移していた。2020年は、2千万人～3千万人台で推移し、同年冬頃から新型コロナ再拡大の影響を受け、2020年12月～翌年1月は1千万人台まで落ち込んだ。
- 北海道においてはGotoキャンペーンの影響を受けて2020年下期の延べ宿泊者数は増加傾向となっていたが、全国同様に2020年12月～翌年1月に減少した。新型コロナ以前の外国人延べ宿泊者数は月平均60万人程度で推移していたが、2021年11月時点では3,190人となっている。

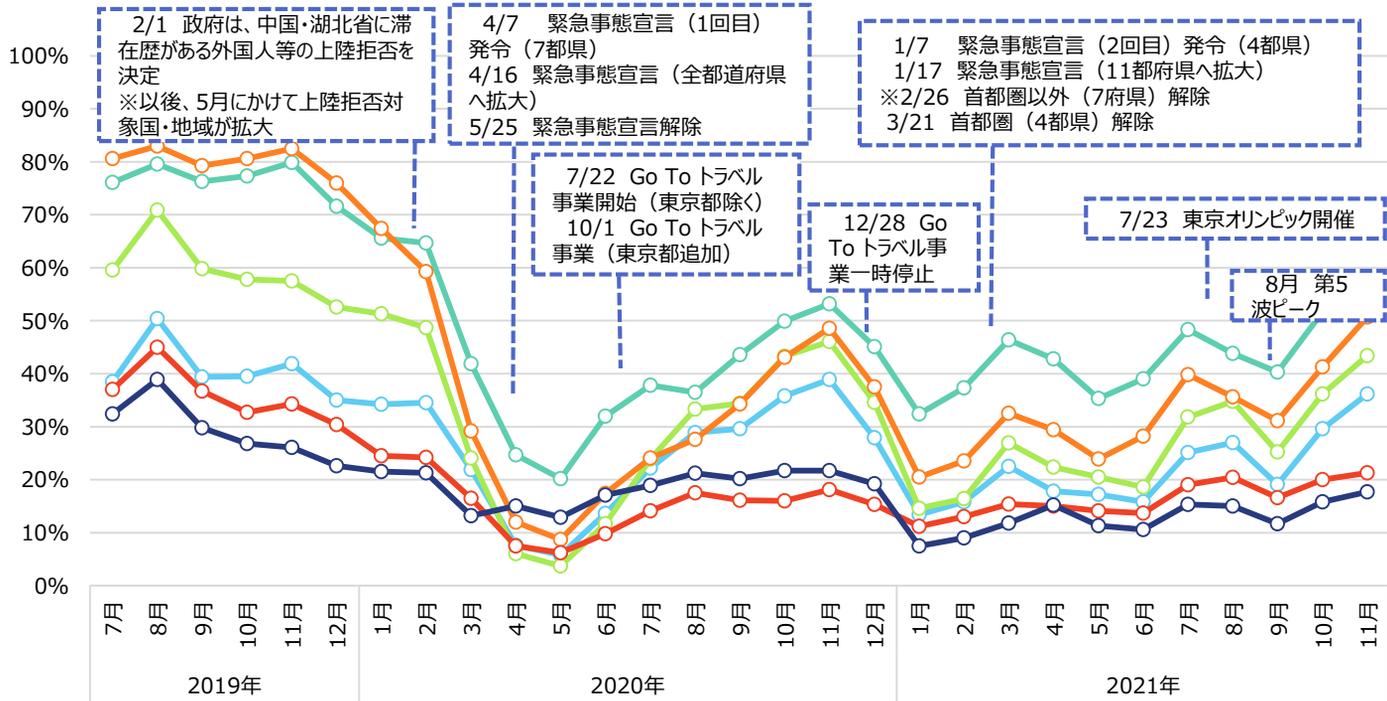


※全国・北海道ともに2021年の値は1月～11月までの2次速報値出所（全国・北海道）：観光庁 宿泊旅行統計調査

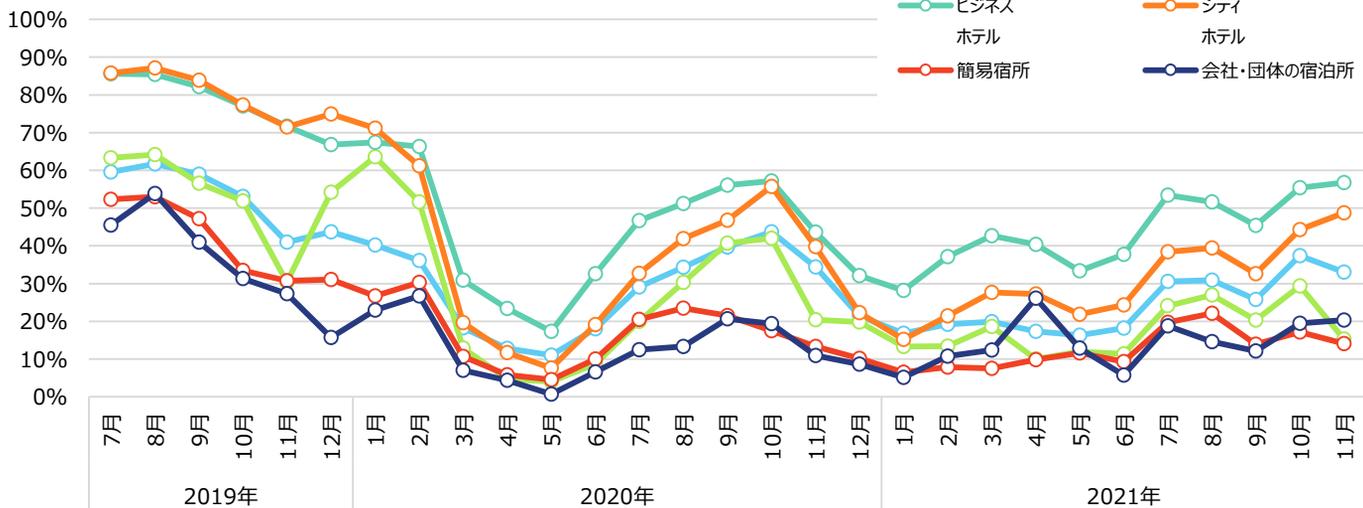
3. 新型コロナ前後の客室稼働率（全国・北海道）

- 新型コロナ前に最も高い稼働率であったシティホテルでは、2019年9月の稼働率は79.3%程度あったが、2020年2月頃から新型コロナの影響を受け、2020年5月には8.5%にまで低下した。6月以降は、緊急事態宣言解除もあり上昇基調にあったが、再び感染拡大の影響を受けて2021年1月には20.5%にまで減少した。ビジネスホテルは2020年2月にシティホテルの稼働率を抜いており、テレワーク等の利用により稼働率が上昇した可能性がある。
- 北海道においても2020年2月以降に稼働率が急激に減少している。約7～8割の水準にあったシティホテルの稼働率は、1回目の緊急事態宣言（2020年4月）を受け1割程度（2020年5月）にまで減少した。GoToトラベルや緊急事態宣言解除等により稼働率を持ち直す時期もあるが、新型コロナ前に比較すると稼働率は低位で推移している。

客室稼働率（全国）



客室稼働率（北海道）



※全国・北海道ともに2021年の値は1月～11月までの2次速報値出所（全国・北海道）：観光庁 宿泊旅行統計調査

Ⅲ. 訪日外国人観光客の動向（訪日外国人旅行者調査より）

調査概要

- 調査方法：インターネットによる調査
- 実施時期：2021年10月5日～10月19日
- 調査地域：韓国、香港、台湾、中国（上海・北京）、タイ、マレーシア、インドネシア、シンガポール、アメリカ、イギリス、オーストラリア、フランスの12地域
- 調査対象者：20歳～59歳の男女、かつ、海外旅行経験者
- 中国は、上海および北京在住者のみ
- 有効回答者数：上記各地域に居住する住民計6,294人
- アンケート業務委託先：楽天インサイト株式会社

- 2019年6月25日～7月8日に実施された調査を「DBJ・JTBFアジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査（2019年度版）」（以下、2019年調査）とする。
- 2020年6月2日～6月12日に実施された調査を「第1回新型コロナ影響度特別調査」（以下、2020年6月調査）とする。
- 2020年12月1日～12月12日に実施された調査を「第2回新型コロナ影響度特別調査」（以下、2020年12月調査）とする。
- 2021年10月5日～10月19日に実施された調査を「第3回新型コロナ影響度特別調査」（以下、2021年10月調査）とする。

◆有効回答者数

(人)

項目	全体	アジア									欧米豪				
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス		
男性	3,151	2,086	264	265	261	260	260	255	260	261	1,065	264	262	259	280
女性	3,138	2,099	276	273	260	260	258	252	263	257	1,039	266	258	263	252
その他	5	4	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
総計	6,294	4,189	540	541	521	520	519	507	523	518	2,105	530	521	522	532

◆訪日経験別回答者数

(人)

項目	全体	アジア									欧米豪				
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス		
訪日経験あり	2,931	2,533	349	379	432	445	289	272	201	166	398	93	130	82	93
訪日経験者（1回）	1,105	870	119	169	89	79	117	93	110	94	235	46	72	52	65
訪日経験者（2回以上）	1,826	1,663	230	210	343	366	172	179	91	72	163	47	58	30	28
訪日経験なし	3,363	1,656	191	162	89	75	230	235	322	352	1,707	437	391	440	439
総計	6,294	4,189	540	541	521	520	519	507	523	518	2,105	530	521	522	532

- 収入者層の区分は、国・地域の回答者数を世帯年収順に三分の一ずつ区分し、上位層を高収入者層、中位層を中収入者層、低位層を低収入者層としている。

◆収入者層別回答者数

(人)

項目	全体	アジア				東南アジア				欧米豪						
		韓国	中国	台湾	香港	タイ	シンガポール	マレーシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス			
低収入者層	2,090	738	202	172	175	189	657	168	154	174	161	695	167	176	186	166
中収入者層	2,129	683	173	166	181	163	715	179	175	192	169	731	204	192	164	171
高収入者層	2,075	701	165	203	165	168	695	172	178	157	188	679	159	153	172	195

◆収入者層区分基準額（目安）

(千円)

	韓国	中国	台湾	香港	シンガポール	タイ	マレーシア	インドネシア	アメリカ	オーストラリア	イギリス	フランス
低収入者層	<	<	<	<	<	<	<	<	<	<	<	<
中収入者層	4,324	3,588	3,309	5,861	4,235	1,372	1,364	639	5,706	5,814	4,694	3,268
高収入者層	6,727	5,382	5,170	8,791	8,471	2,745	2,728	1,277	11,411	10,381	7,824	5,228
	>	>	>	>	>	>	>	>	>	>	>	>

1. 新型コロナに対する不安

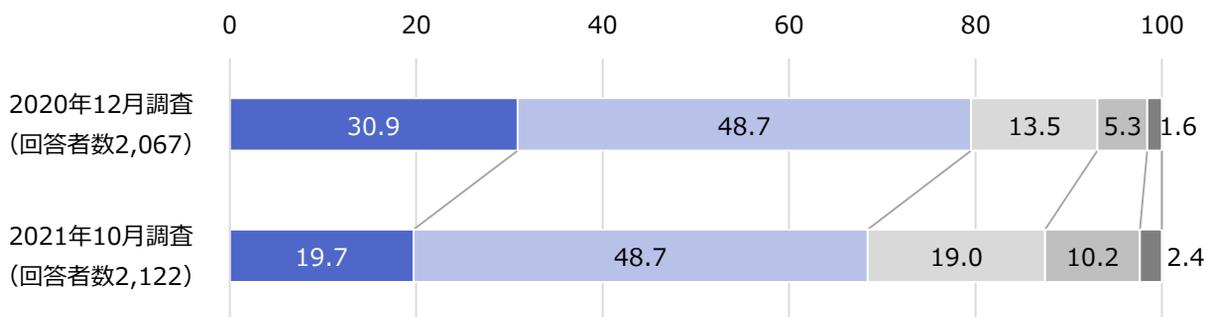
新型コロナへの不安

全体

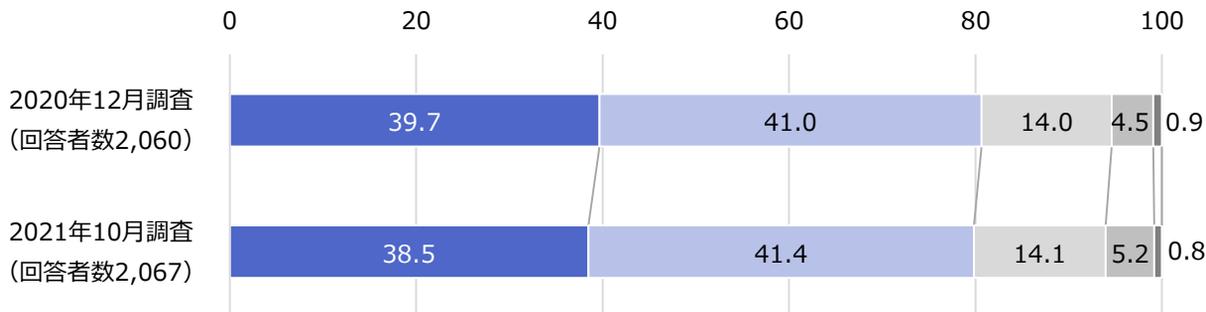
- 2020年12月調査に比べて、2021年10月調査では新型コロナの感染拡大に対して不安を持つ人の割合は減少傾向にある。
- 各国・地域において、ワクチンの普及や治療薬の開発、新型コロナ禍での新しい生活様式への適応により、今後も感染への不安は小さくなる可能性がある。

新型コロナの感染拡大に対する不安

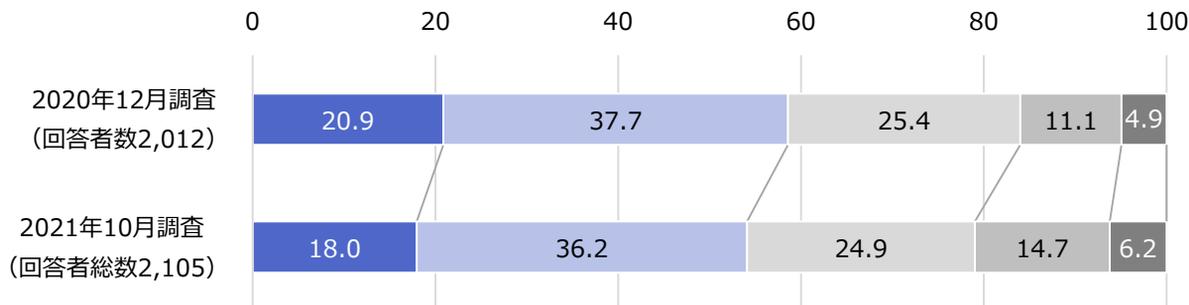
東アジア



東南アジア



欧米豪



■ 不安がある ■ やや不安がある ■ どちらともいえない ■ あまり不安はない ■ 不安はない

回答はひとつ、%

今後6カ月で実施を予定・検討している旅行

全体

- 6カ月以内に実施するであろう旅行については、全ての項目において2020年12月調査よりも2021年10月調査の方が実施意向が高い。
- 海外旅行では短距離になるほど実施意向が高い。海外旅行は近隣国から再開される可能性がある。

今後6ヶ月で実施を予定・検討している旅行

2020年12月調査

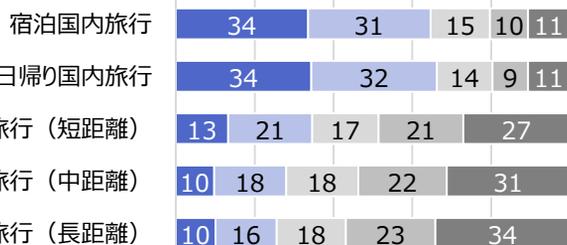
2021年10月調査

東アジア

東アジア

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

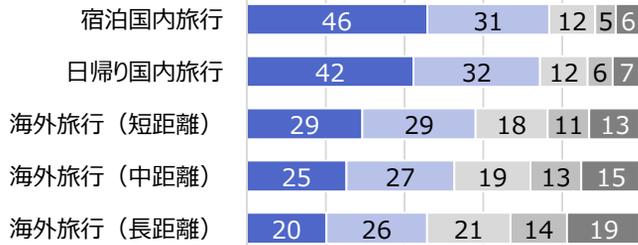
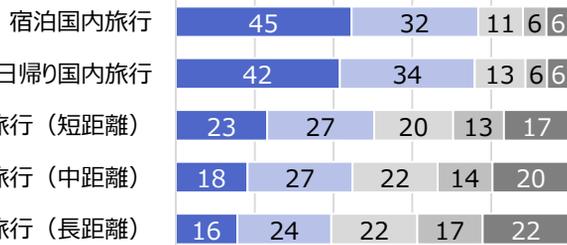


東南アジア

東南アジア

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100

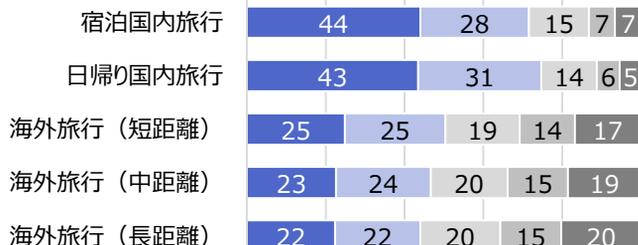
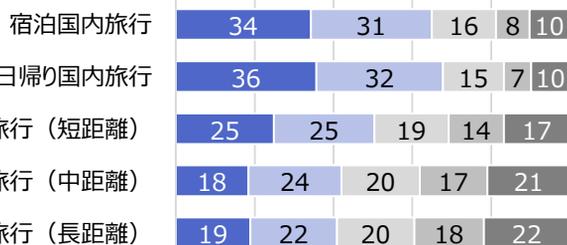


欧米豪

欧米豪

0 20 40 60 80 100

0 20 40 60 80 100



■ 実施する ■ おそらく実施する ■ どちらともいえない ■ おそらく実施しない ■ 実施しない

※海外旅行の距離区分は、飛行時間が短距離で5時間未満、中距離で5～9時間、長距離で9時間以上としている。

回答はひとつ、%

2020年回答者総数6,139、2021年回答者総数6,294

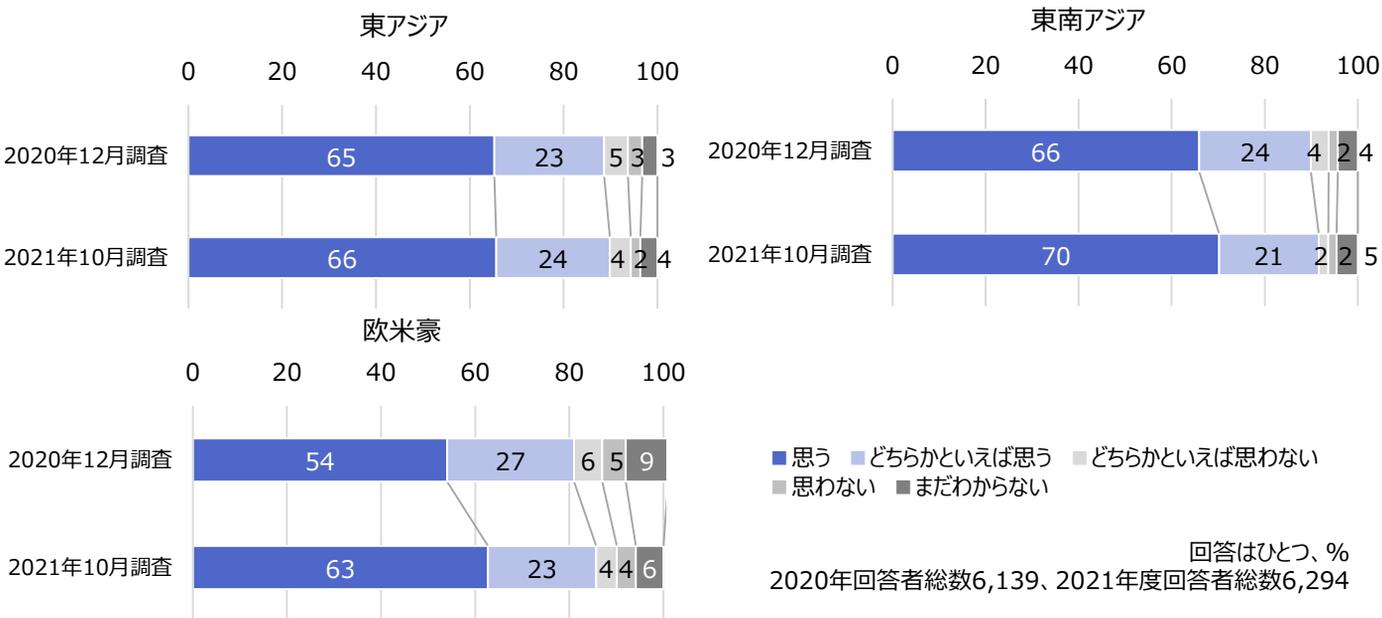
2. 次の海外旅行の意向

新型コロナ収束後の海外旅行への意向

全体

● 新型コロナ収束後の海外旅行への意向は、2020年12月調査に比べて2021年10月調査の方が意向が高くなっている。

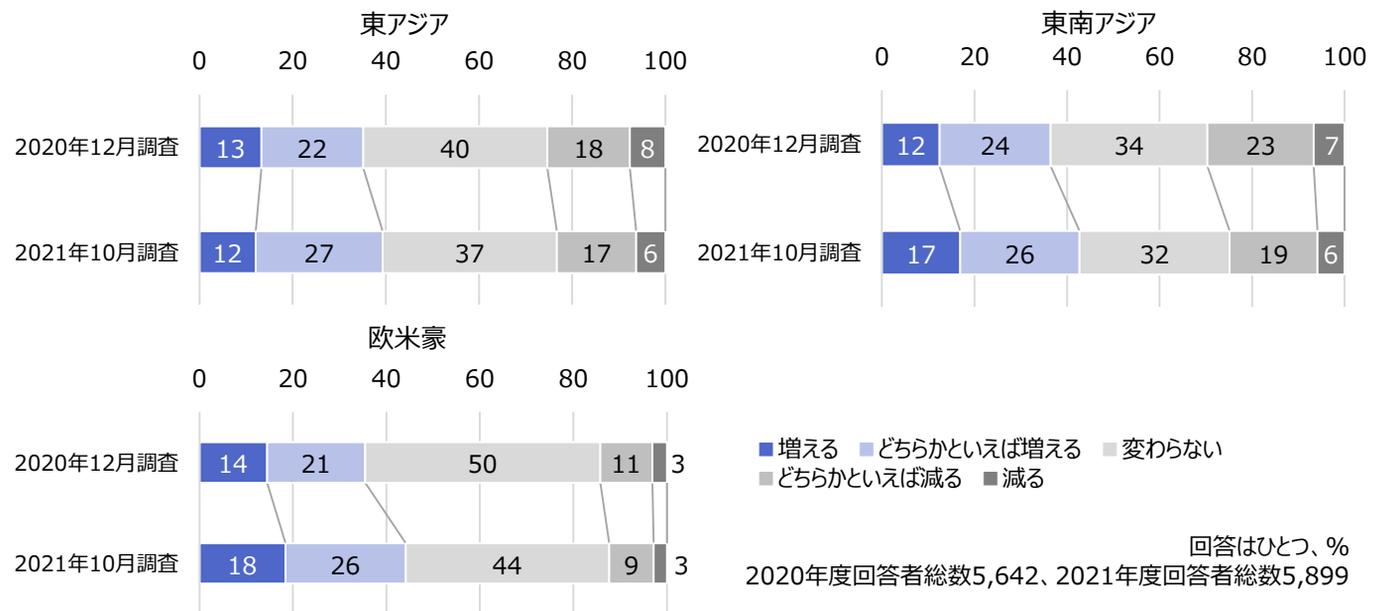
新型コロナ収束後海外旅行をしたいか



渡航回数

● 2020年12月調査と比べて2021年10月調査では、いずれの地域においても新型コロナ発生以前と比べて「年間の海外旅行回数が増える」「どちらかといえば増える」と回答した人の割合は増加した。

次に海外旅行をするとき、年間の海外旅行回数は新型コロナ発生以前と比べてどのように変化するか



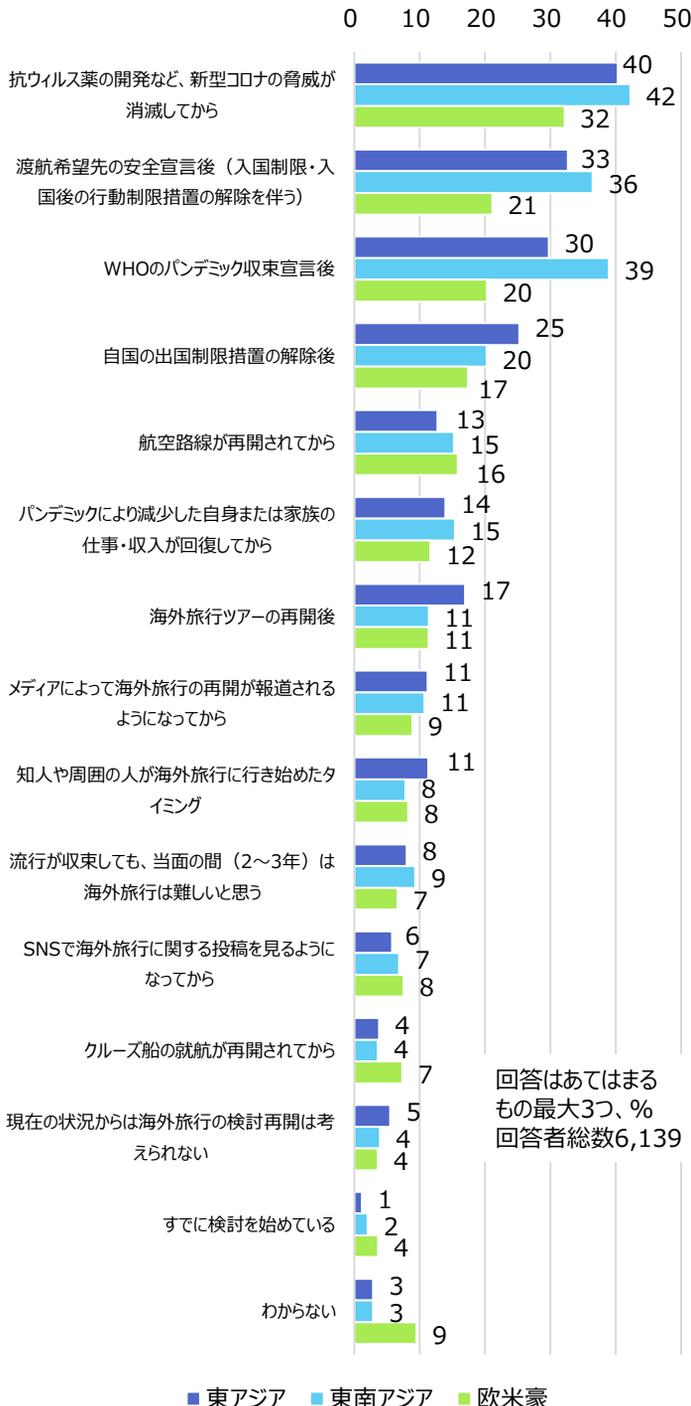
海外旅行検討再開タイミング

全体

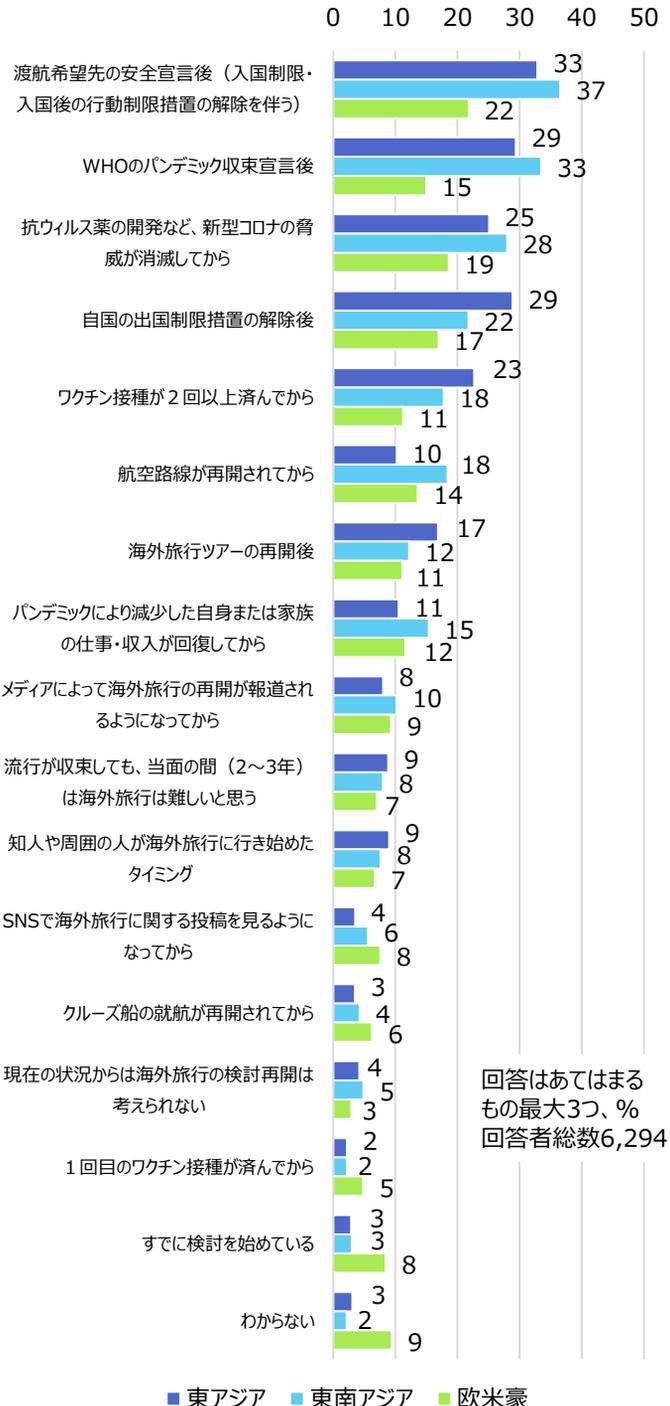
- 海外旅行の検討を再開するタイミングは、2020年12月調査・2021年10月調査のどちらにおいても「抗ウイルス薬の開発」「渡航希望先の安全宣言後」「WHOのパンデミック収束宣言後」が上位を占めている。
- 治療方法の確立や公的な宣言をもって、海外旅行の検討が再開されるものと考えられる。

海外旅行検討再開タイミング

2020年12月調査



2021年10月調査

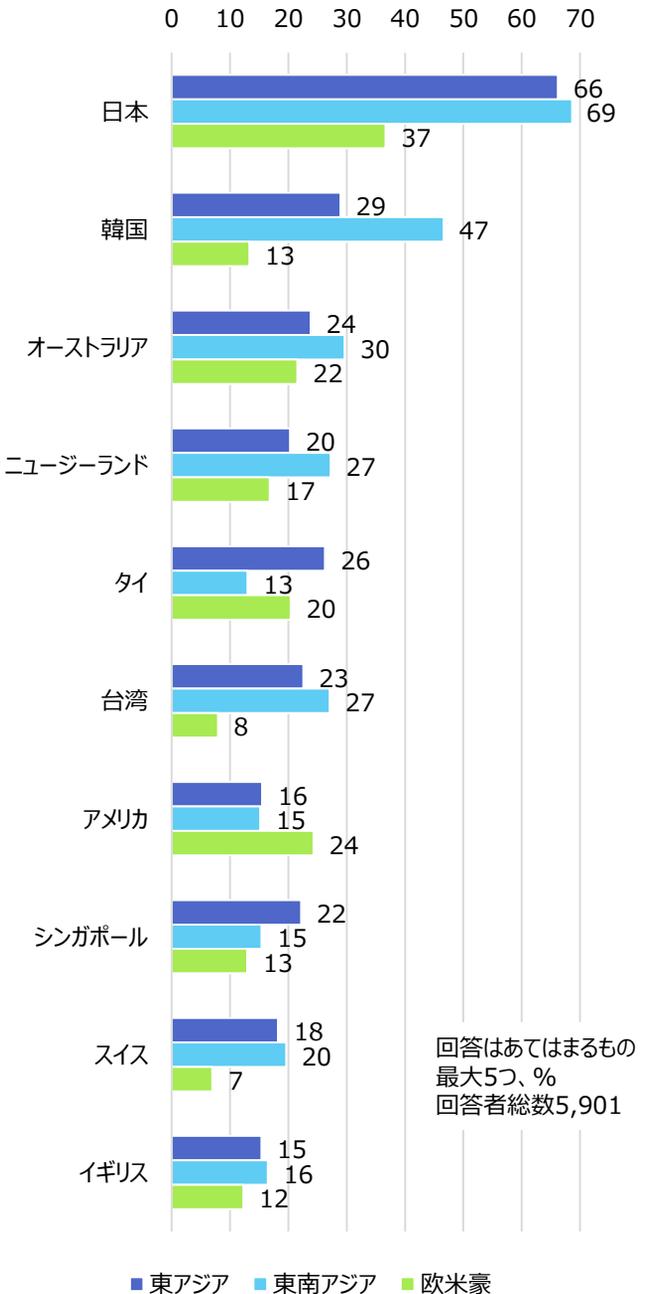
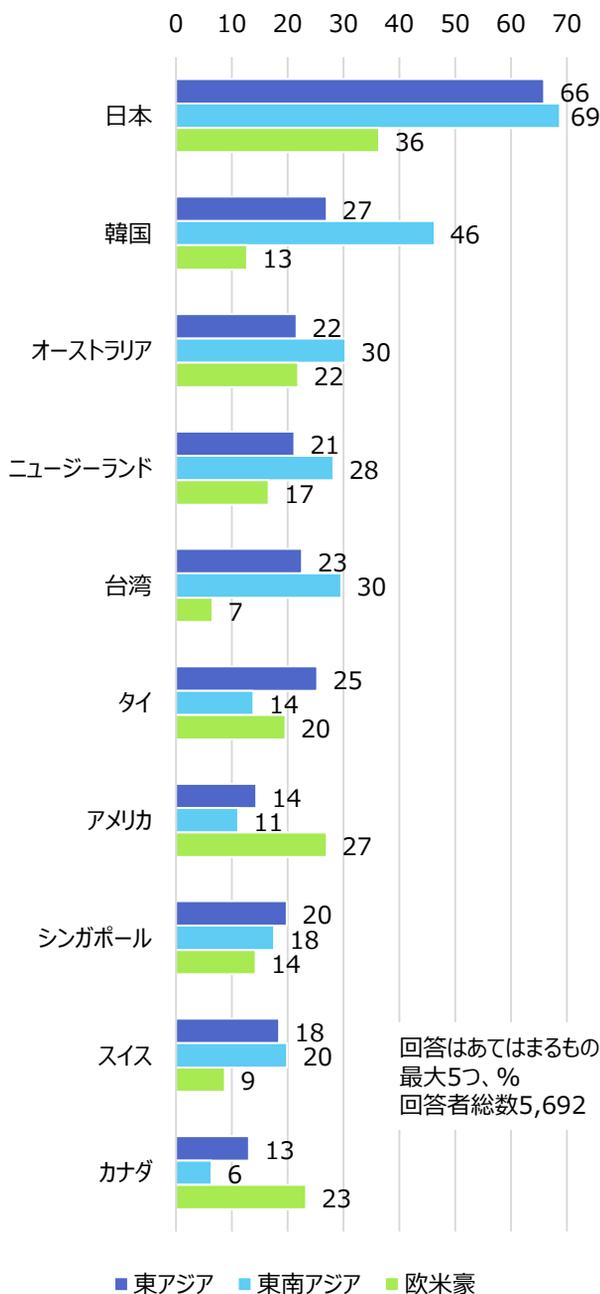


● 海外旅行したい国・地域については、日本の人気は依然として高く、いずれの地域においても1位にランクインしている。

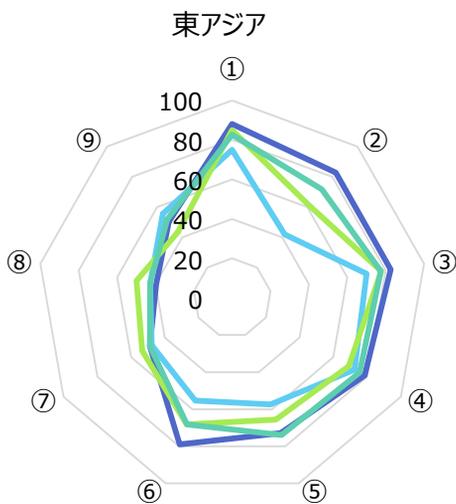
海外旅行したい国・地域（トップ10）

2020年12月調査

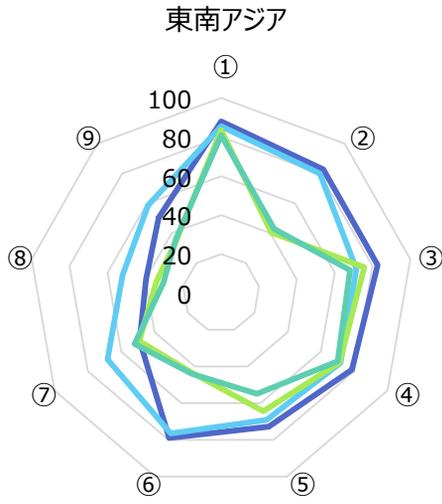
2021年10月調査



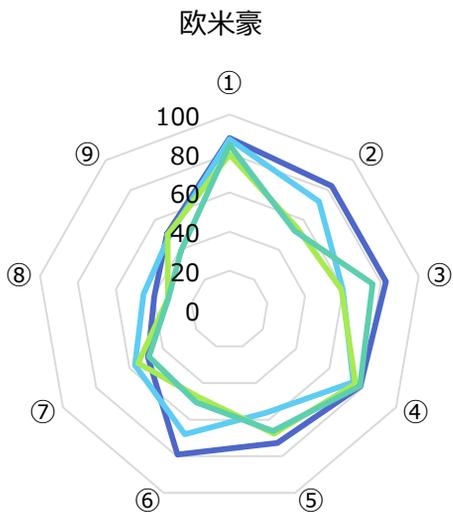
- 下記グラフは、訪問希望国別に、観光のために同国を訪れたい理由について、「非常にそう思う」と「そう思う」と回答した割合を、日本のそれと比較したものである。
- 日本は他の国と比較して、「②清潔さ」「③食事」「⑥治安の良さ」が高く評価されている。
- しかし、日本は新型コロナの被害が少ない国と評価されているとは言い難い(⑧)。
- 新型コロナ収束後はウイルス対策全般の継続などの安全・安心に関する取り組みを徹底するとともに、「清潔さ」「食事」「治安の良さ」という強みを活かすべく、長年の課題である多言語対応を強化し、それぞれの言語で正確な情報発信をすることが重要だと考えられる。



- 日本
- 中国
- 台湾
- 韓国



- 日本
- シンガポール
- タイ
- インドネシア



- 日本
- オーストラリア
- アメリカ
- イタリア

- ① 以前も旅行したことがあり、気に入ったから
- ② 清潔だから
- ③ 食事が美味しいから
- ④ 体験したいツアーやアクティビティがあるから
- ⑤ 買い物したいから
- ⑥ 治安が良いから
- ⑦ 多言語に対応しているから
- ⑧ 新型コロナの被害が少ない国・地域だったから
- ⑨ この国・地域のワクチン接種が進んでいるから

回答はあてはまるもの全て、%

3. 北海道訪問への意向

日本の観光地への認知度「これらの観光地をご存じですか」

全体

- 「北海道」の認知度は、12地域全体で46%（順位5位）、アジアで62%（順位4位）と、2020年12月調査と同水準となっており、ゴールデンルート*に次いでトップレベルにある。一方、欧米豪全体では認知度は15%（順位12位）と、アジアに比べて低位にとどまっている。
- 道内各観光地の中では、アジア・欧米豪ともに、認知度は「北海道」に次いで「札幌」が高い。また、アジアでは「函館」「旭川／富良野」の認知度も高く、2桁の比率となっている。
- 台湾・香港では、道内の各観光地の認知度が全体的に他国よりも高い水準にあり、「ニセコ」を除く地域で2桁の比率となっている。

*ゴールデンルート・・・東京、箱根、富士山、名古屋、京都、大阪

回答者数→	全体		アジア																	
			韓国		中国		台湾		香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア			
	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位		
	6,294		4,189		540		541		521		520		519		507		523		518	
北海道	46	⑤	62	④	59	④	60	③	80	①	71	③	61	③	64	②	60	③	44	⑤
札幌	35	⑨	46	⑧	57	⑤	29	⑱	69	⑦	60	⑧	45	⑥	45	⑥	34	⑧	27	⑪
函館	15		21		13		11		58	⑫	39		11		18	⑲	11		6	
旭川／富良野	9		13		6		9		34		28		5		8		7		5	
帯広／十勝	5		7		2		5		16		20		4		5		3		2	
ニセコ	4		5		2		8		5		4		4		8		5		2	
知床／阿寒	5		6		4		9		14		11		4		5		3		2	

東京	61	①	67	①	66	①	61	②	77	④	72	②	63	②	68	①	67	①	67	①
富士山	55	②	64	②	54	⑥	65	①	76	⑤	68	④	66	①	63	③	62	②	56	②
大阪	52	③	63	③	65	②	55	④	79	②	74	①	55	⑤	63	④	59	④	53	③
京都	50	④	60	⑤	63	③	54	⑤	78	③	67	⑤	57	④	57	⑤	52	⑤	50	④
沖縄	40	⑥	50	⑥	51	⑦	49	⑦	73	⑥	66	⑥	37	⑧	45	⑦	41	⑥	36	⑧
九州	27	⑭	38	⑫	46	⑩	38	⑪	68	⑨	59	⑩	29	⑬	26	⑫	23	⑬	12	⑱

回答者数→	欧米豪									
			アメリカ		オーストラリア		イギリス		フランス	
	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位
	2,105		530		521		522		532	
北海道	15	⑫	12	⑬	21	⑩	14	⑪	12	⑫
札幌	14	⑬	14	⑪	19	⑫	13	⑬	11	⑬
函館	3		2		5		3		3	
旭川／富良野	3		4		3		2		3	
帯広／十勝	2		2		2		3		3	
ニセコ	3		3		4		3		2	
知床／阿寒	3		2		2		3		2	

※順位は20位まで表示

東京	48	①	51	①	52	①	44	①	44	①
富士山	38	②	46	②	43	②	34	②	31	③
大阪	32	③	29	④	41	③	28	⑤	30	④
京都	30	⑤	29	⑤	33	⑤	28	④	32	②
沖縄	22	⑦	28	⑥	23	⑧	19	⑨	17	⑨
九州	7	⑱	6	⑱	9	⑱	7	⑱	5	⑳

回答はあてはまるもの全て、%

日本の観光地への訪問意欲「日本のどこに行きたいですか」

● 「北海道」への訪問意欲は、12地域全体で31%(順位3位、2020年12月調査4位)、アジアで42%(順位2位、2020年12月調査2位)となっており、ゴールデンルートに次いでトップレベルにある。台湾・香港では2012年調査開始より10年連続で「北海道」への訪問意欲が1位となっている。一方、欧米豪では7%(順位9位、2020年12月調査10位)と、アジアと比較すると低い水準となっている。

	全体		アジア																	
			韓国		中国		台湾		香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア			
	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位		
回答者数→	5,812		4,036		504		539		513		513		508		477		490		492	
北海道	31	③	42	②	26	④	41	③	58	①	49	①	45	①	48	①	45	②	24	⑤
札幌	18	⑦	23	⑦	28	③	11	⑬	34	⑦	28	⑦	26	⑥	20	⑦	19	⑦	13	⑨
函館	6	⑱	9	⑱	3		3		29	⑨	17	⑯	4		7	⑯	5	⑱	1	
旭川/富良野	4		5		1		3		12		13	⑱	2		3		2		2	
帯広/十勝	2		2		0		1		5		6		2		1		1		1	
二七〇	2		2		0		3		1		2		2		4		2		1	
知床/阿寒	2		2		1		2		5		4		1		1		1		0	

東京	43	①	45	①	33	①	41	②	47	②	41	③	44	③	45	②	50	①	57	①
富士山	36	②	39	③	17	⑦	50	①	39	⑤	31	⑥	44	②	41	③	45	③	45	②
大阪	31	④	37	④	30	②	32	⑤	46	④	42	②	32	⑤	38	④	38	④	37	③
京都	29	⑤	33	⑤	26	⑤	35	④	47	③	33	④	32	④	33	⑤	29	⑤	31	④
沖縄	20	⑥	24	⑥	23	⑥	21	⑦	38	⑥	31	⑤	16	⑦	26	⑥	21	⑥	16	⑦
九州	10	⑬	13	⑬	13	⑩	12	⑫	22	⑭	23	⑩	13	⑪	8	⑬	8	⑭	4	⑰

	欧米豪									
			アメリカ		オーストラリア		イギリス		フランス	
	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位	比率	順位
回答者数→	1,776		458		470		449		399	
北海道	7	⑨	7	⑧	10	⑦	5	⑪	6	⑩
札幌	7	⑩	6	⑪	9	⑧	5	⑫	6	⑪
函館	1		1		2		1		1	
旭川/富良野	1		2	⑱	1		1		1	
帯広/十勝	1		1		1		2		1	
二七〇	1		1		1		2		1	
知床/阿寒	1		0		1		1		1	

東京	40	①	44	①	40	①	33	①	43	①
富士山	28	②	32	②	28	②	24	②	30	②
大阪	19	④	15	⑤	24	③	14	⑤	22	④
京都	20	③	19	③	22	④	16	③	22	③
沖縄	10	⑦	16	④	8	⑩	7	⑨	10	⑧
九州	2	⑰	2		3		2		3	⑯

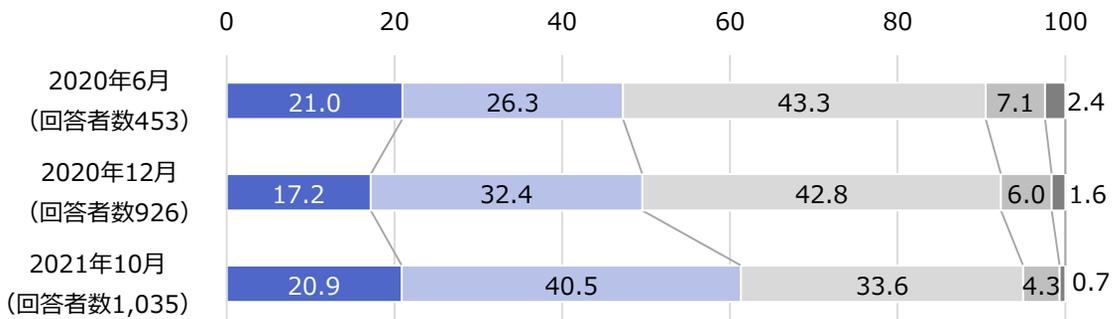
※前頁の質問において「知っている観光地」の中で「実際に行ってみたい観光地」を尋ねたもの
 ※順位は20位まで表示

回答はあてはまるもの全て、%

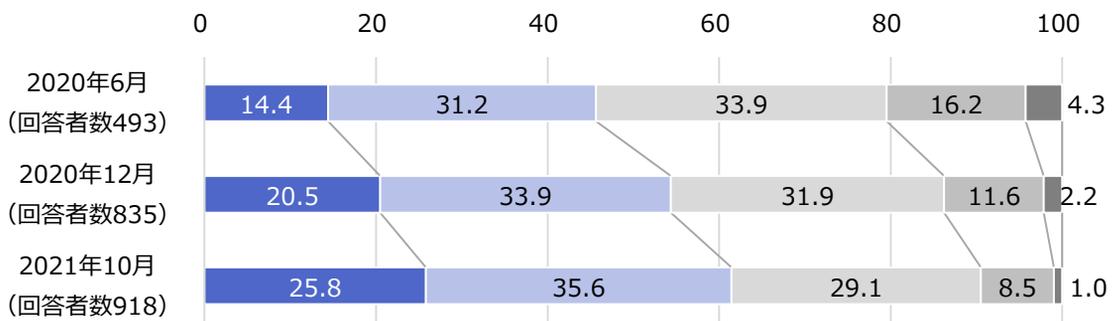
新型コロナ収束後の海外旅行の予算

- 北海道訪問希望者において、海外旅行の予算が「増える」「どちらかといえば増える」と回答した割合は、「減る」「どちらかといえば減る」よりも高くなっており、2020年6月調査及び2020年12月調査よりその割合はさらに増加している。

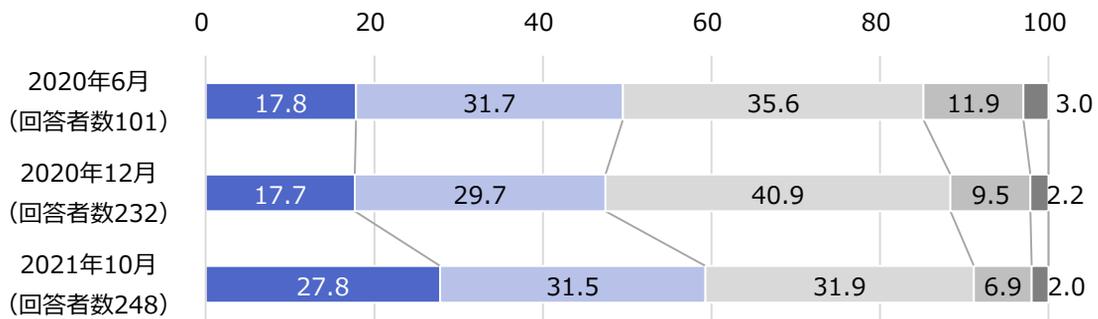
東アジア



東南アジア



欧米豪



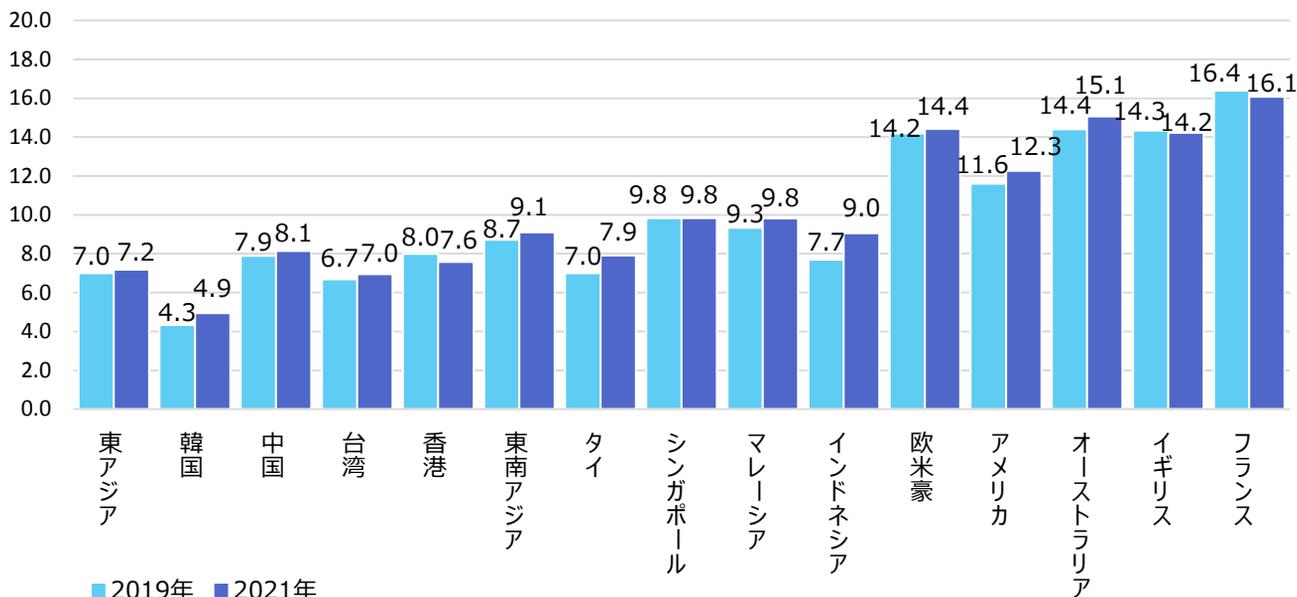
■ 増える ■ どちらかといえば増える ■ 変わらない ■ どちらかといえば減る ■ 減る

回答はひとつ、%

新型コロナ収束後の訪日旅行で希望する滞在日数

- 希望する滞在日数について、新型コロナ収束後は全体でやや長くなっている。特にタイとインドネシアで、新型コロナ流行以前よりも長く滞在したいという傾向が見られる。

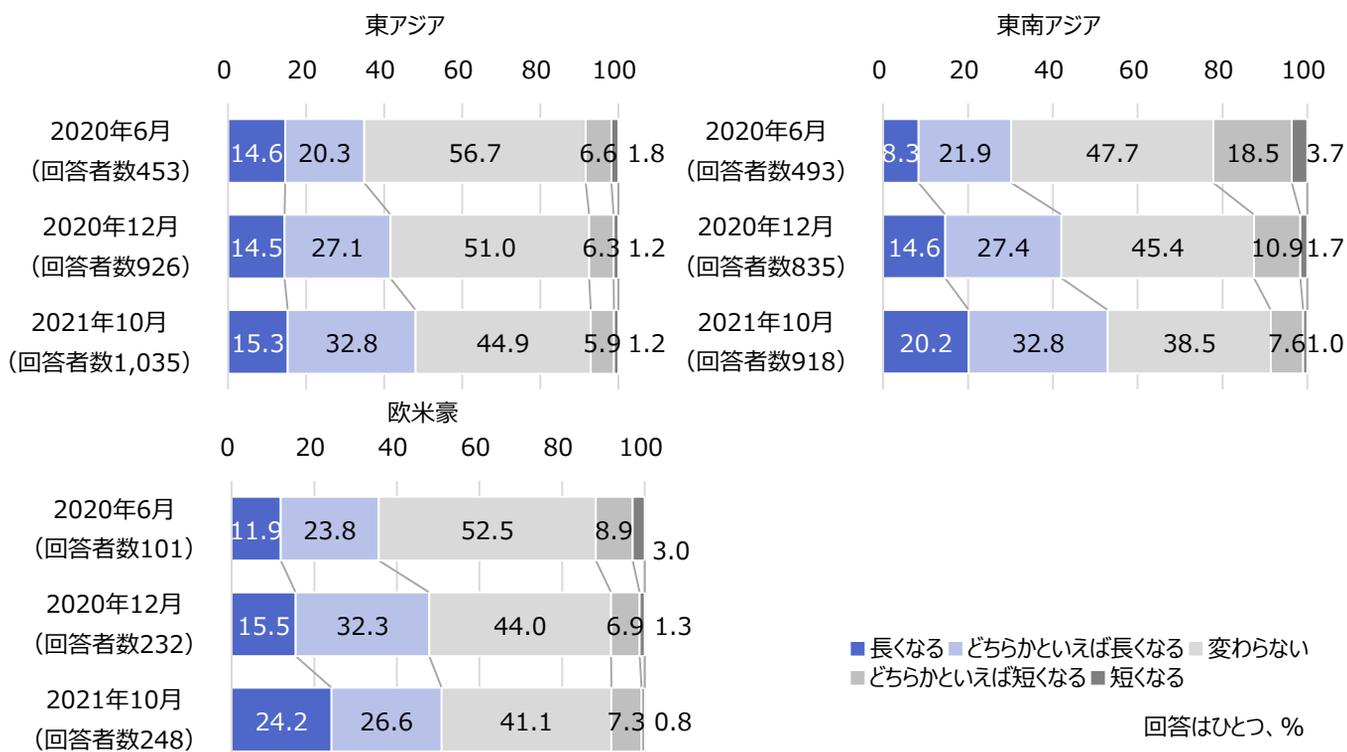
希望する滞在日数



日、2019年回答者総数1,376、2021年回答者総数1,582

新型コロナ収束後の海外旅行で希望する滞在日数

- 1回あたりの滞在日数については、2020年6月調査及び2020年12月調査と比較すると「長くなる」「どちらかといえば長くなる」の割合はおよそ半数まで増加した。

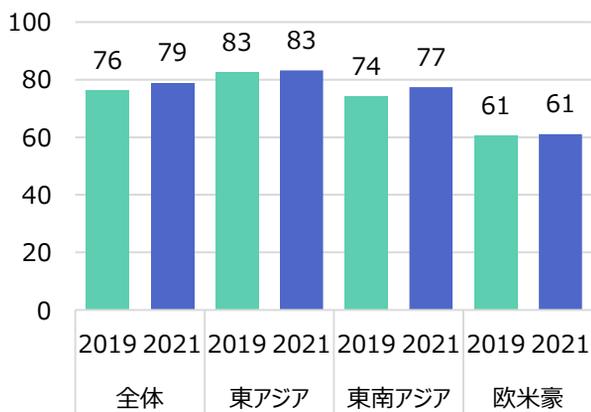


回答はひとつ、%

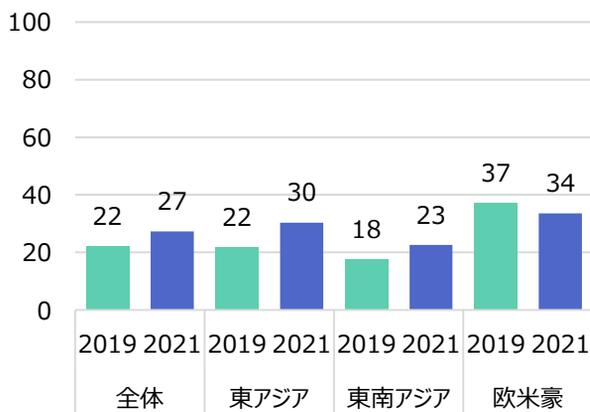
希望する宿泊施設（新型コロナ前後で比較）

- 新型コロナ前後（2019年調査・2021年調査）を比較すると、「温泉のある日本旅館」「豪華で快適な高級ホテル（西洋式）」が新型コロナ後も人気が高い。
- 東南アジアは、東アジアや欧米豪と比較して「ユースホステル・ゲストハウス」や「現地の人から有料で借りる家・アパート」を希望する割合が高い。

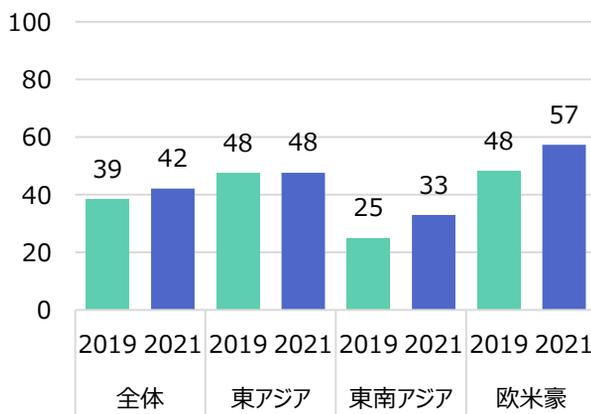
温泉のある日本旅館



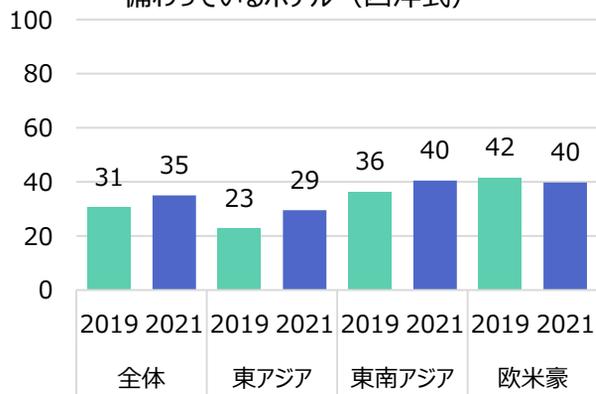
日本旅館（温泉なし）



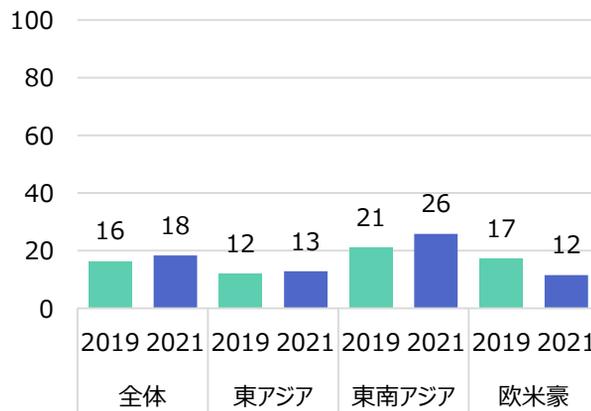
豪華で快適な高級ホテル（西洋式）



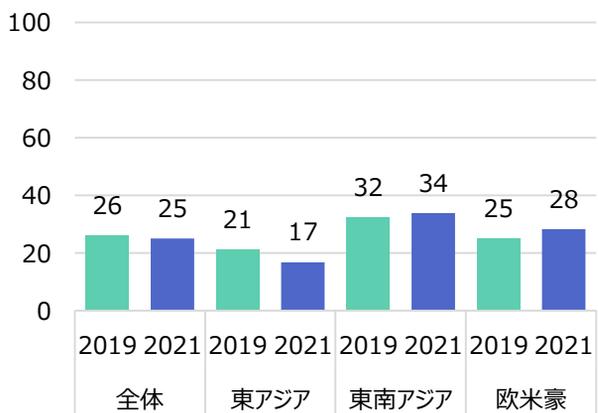
安価で基本的な設備のみが備わっているホテル（西洋式）



ユースホステル・ゲストハウス



現地の人から有料で借りる家・アパート



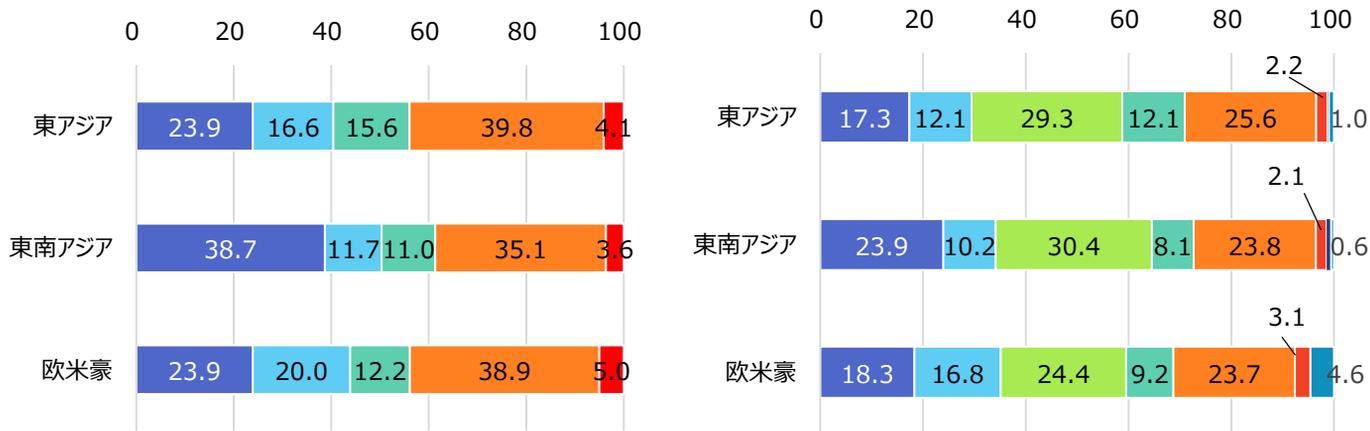
希望する旅行形態

- 新型コロナ前後で希望する旅行形態の傾向に特段の差は見られない。
- 2021年調査ではすべての地域で「セミパッケージツアー」の割合が高い。
- 東南アジアでは「航空券と宿泊施設がセットになったパック旅行に食事・観光・添乗員や現地ガイドが含まれているもの」の割合が高く、多言語対応への不安がうかがえる。
- 欧米豪では「自身の嗜好によるガイド付きテラーメイドツアー」の割合が高い。

希望する旅行形態

2019年調査

2021年調査



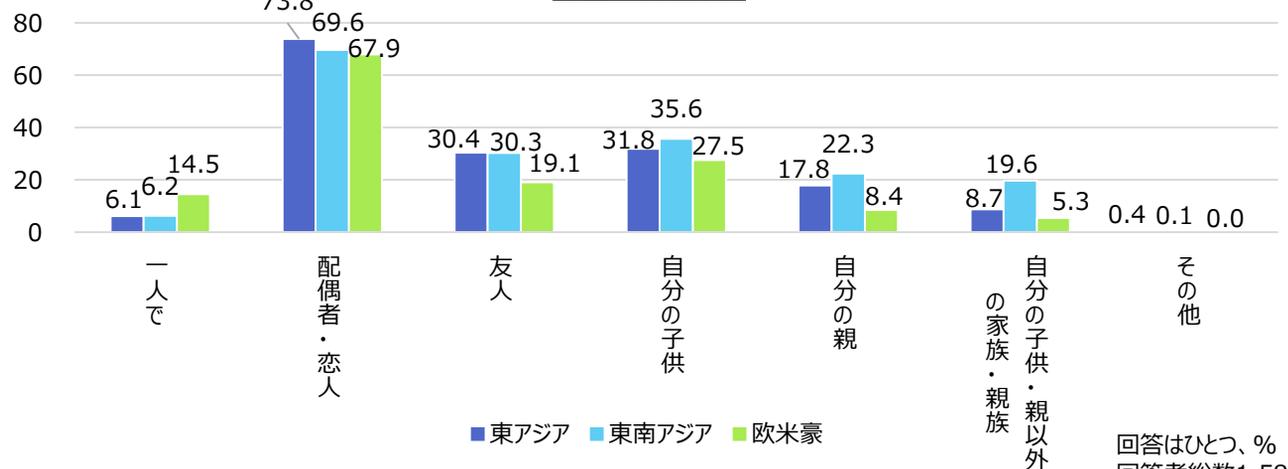
- 航空券と宿泊施設がセットになったパック旅行に食事・観光・添乗員や現地ガイドが含まれているもの
- 自身の嗜好によるガイド付きテラーメイドツアー
- 航空券、宿泊施設、移動、食事、観光等について、複数の選択肢から選択し、自由に組み合わせることができるセミパッケージツアー（2019年調査時の選択肢にはなし）
- 航空券と宿泊施設のみがセットになったパック旅行 ■ 航空券と宿泊施設を個別に手配
- 航空券のみを出発前に手配（宿泊先は現地を手配）
- その他 ■ わからない（2019年調査時の選択肢にはなし）

回答はひとつ、%
2019年回答者総数1,376
2021年回答者総数1,582

希望する旅行同伴者

- 新型コロナ前の旅行同伴者と、新型コロナ後に希望する同伴者について、傾向の変化は特段みられない。
- 他の地域と比べ、東南アジアでは「自分の子供・親以外の家族・親族」の割合が高い。また、欧米豪では一人旅を希望する割合が高い。

希望する同伴者



回答はひとつ、%
回答者総数1,582

訪日旅行で体験したいこと

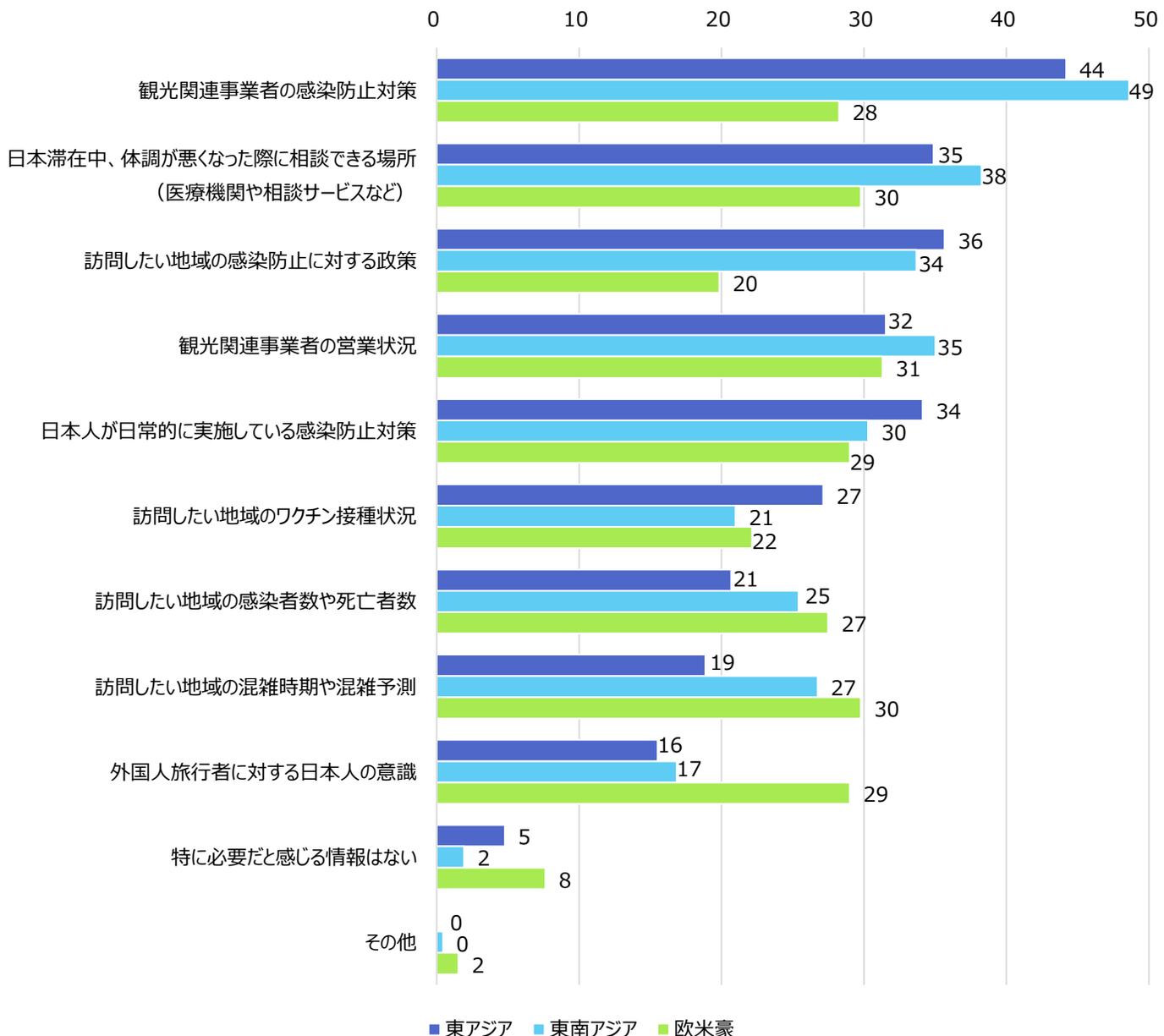
- 全体として、「自然や風景の見物」「桜の観賞」「伝統的日本料理」「温泉への入浴」「雪景色観賞」が上位にあり、新型コロナ前後と比較してもその傾向に大きな変化はない。
- 欧米豪ではアジアと比較すると、「有名な史跡や歴史的な建築物の見物」「世界遺産の見物」「日本庭園の見物」「繁華街の街歩き」「伝統芸能鑑賞」「伝統的日本料理」「日本の酒」といった日本独特の文化について関心の高いことがうかがえる。

	東アジア	東南アジア	欧米豪
回答者数→	774	677	131
「見る」項目			
自然や風景の見物	75	76	94
雪景色観賞	61	68	59
桜の観賞	72	81	88
紅葉の観賞	49	66	55
有名な史跡や歴史的な建築物の見物（説明の充実度含む）	53	57	86
日本庭園の見物（説明の充実度含む）	40	56	84
近代的／先進的な建築物の見物（説明の充実度含む）	29	43	59
ドラマや映画のロケ地・アニメの舞台の見物	22	32	34
伝統工芸品の工房見学・体験	28	40	44
世界遺産の見物（説明の充実度含む）	45	58	71
イベント・祭りの見物	41	49	58
スポーツ観戦	9	11	24
「楽しむ／体験する」項目			
美術館や博物館の鑑賞（説明の充実度含む）	24	34	54
遊園地やテーマパーク	53	50	46
繁華街の街歩き	48	58	78
スノーアクティビティ（スキー、スノーボード等）を楽しむこと	28	45	18
マリナクティビティを楽しむこと	15	19	17
その他のアウトドアアクティビティ（サイクリング、フィッシング等）を楽しむこと	17	25	27
伝統芸能鑑賞（歌舞伎や能）	19	31	56
ナイトライフ（バーやクラブ、芸者遊び等）体験	22	27	47
温泉への入浴	70	69	65
フルーツ狩り	24	33	18
日本文化の体験（茶道、華道、着物試着など）	45	52	64
伝統工芸品の制作や購入	26	29	44
自然や資源を損なうことのないよう配慮されている観光地・観光ツアー	30	52	69
「食べる」項目			
伝統的日本料理	68	72	89
現地の人が普段利用しているカジュアルな食事	46	64	70
日本の酒（日本酒・焼酎）	39	37	60
スイーツ	39	42	48
「買う」項目			
ブランド品や宝飾品のショッピング	17	25	26
洋服やファッション雑貨のショッピング	38	44	41
電化製品のショッピング	27	24	29
化粧品や医薬品の購入	48	37	18
食品や飲料のショッピング	51	52	50
その他	0	1	2

観光目的で訪日する場合、安心して旅行をするために計画段階で最も必要だと感じる情報

- アジア地域では、「観光関連事業者の感染防止対策」「日本滞在中、体調が悪くなった際に相談できる場所」「訪問したい地域の感染防止に対する政策」の選択率が高い。一方、欧米豪においては、「訪問したい地域の感染者数や死者数」「混雑時期や混雑予測」「外国人旅行者に対する日本人の意識」の選択率が高いのが特徴的である。

安心して旅行をするために計画段階で最も必要だと感じる情報



回答は最大3つまで、%、回答者総数1,582

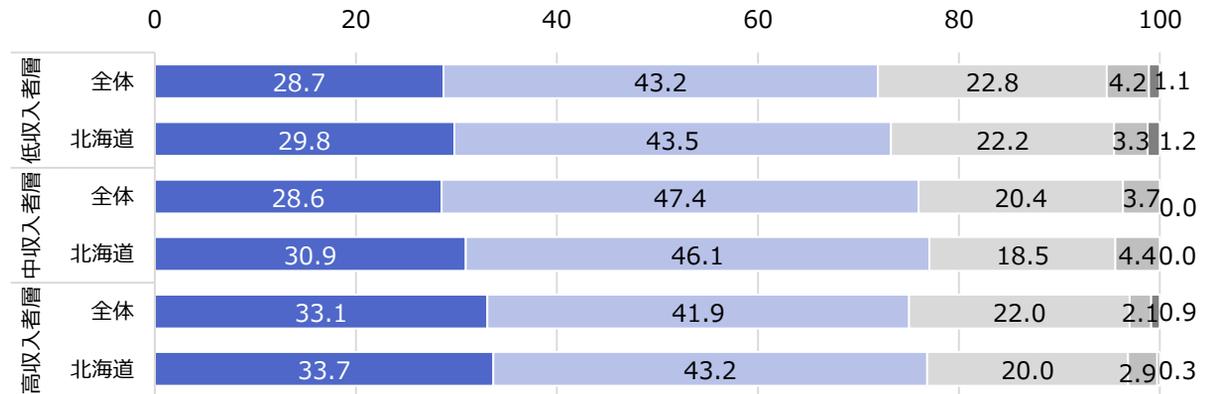
4. サステナブルな旅行

海外旅行の訪問先や宿泊施設を検討する際に、「サステナブルな取組を行っていること」を重視するか

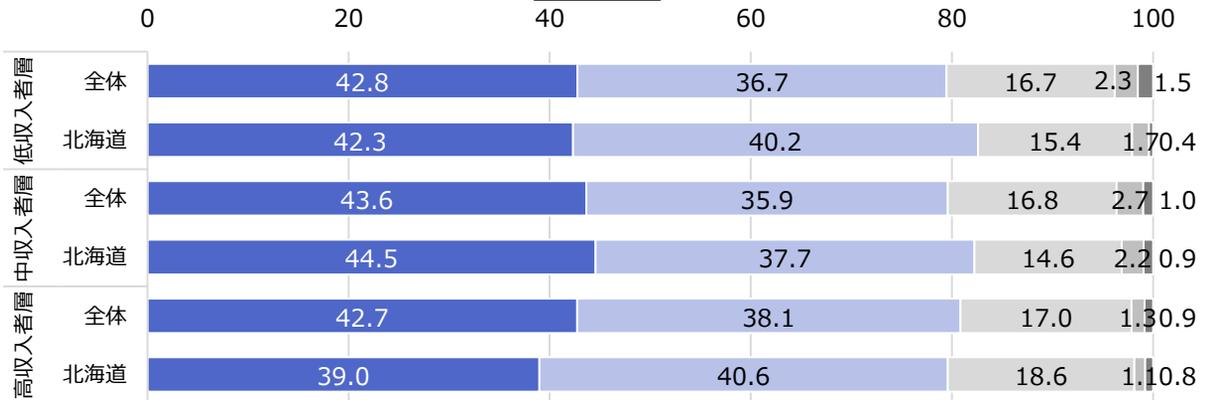
※「サステナブルな取組」とは、地域の「自然や生物多様性の保全等」、「伝統・文化の保存・継承」、「地域経済の活性化や地域づくり」の保護と貢献への取組とする。

- 北海道訪問希望者は全体と比較して、「サステナブルな取組」を重視する傾向にある。
- 東アジアと東南アジアは、欧米豪よりも「サステナブルな取組」を重視する割合が大きい。

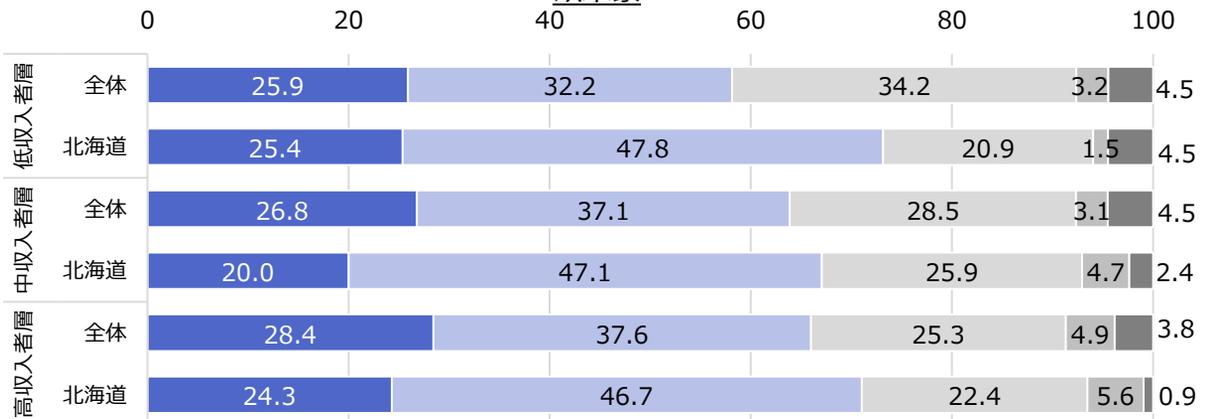
東アジア



東南アジア



欧米豪



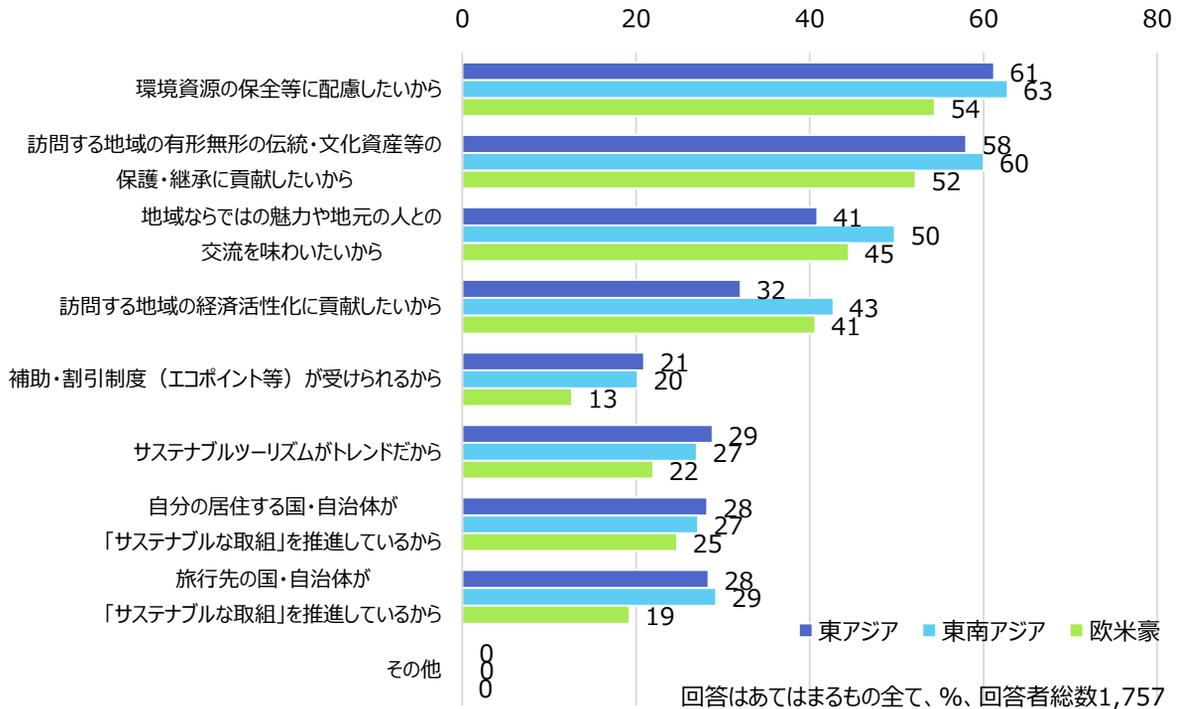
■ 重視する ■ どちらかといえば重視する ■ どちらでもない ■ どちらかといえば重視しない ■ 全く重視しない

回答はひとつ、%、全体回答者総数6,294、北海道訪問希望者総数2,269

「サステナブルな取組」を重視する理由

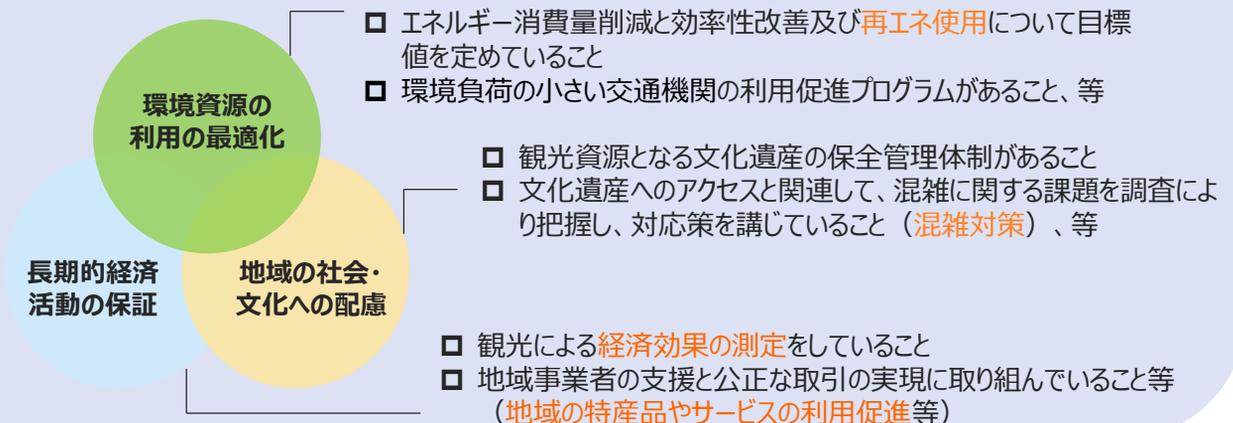
- サステナブルな取組を重視する理由として「環境資源の保全に配慮したいから」「訪問する地域の有形無形の伝統・文化資産等の保護・継承に貢献したいから」を選択した割合がどの地域も5割以上だった。
- 東南アジアは、東アジアと欧米豪よりも選択率が高くなっている項目が多い。

「サステナブルな取組」を重視する理由



参考) サステナブルツーリズムとは

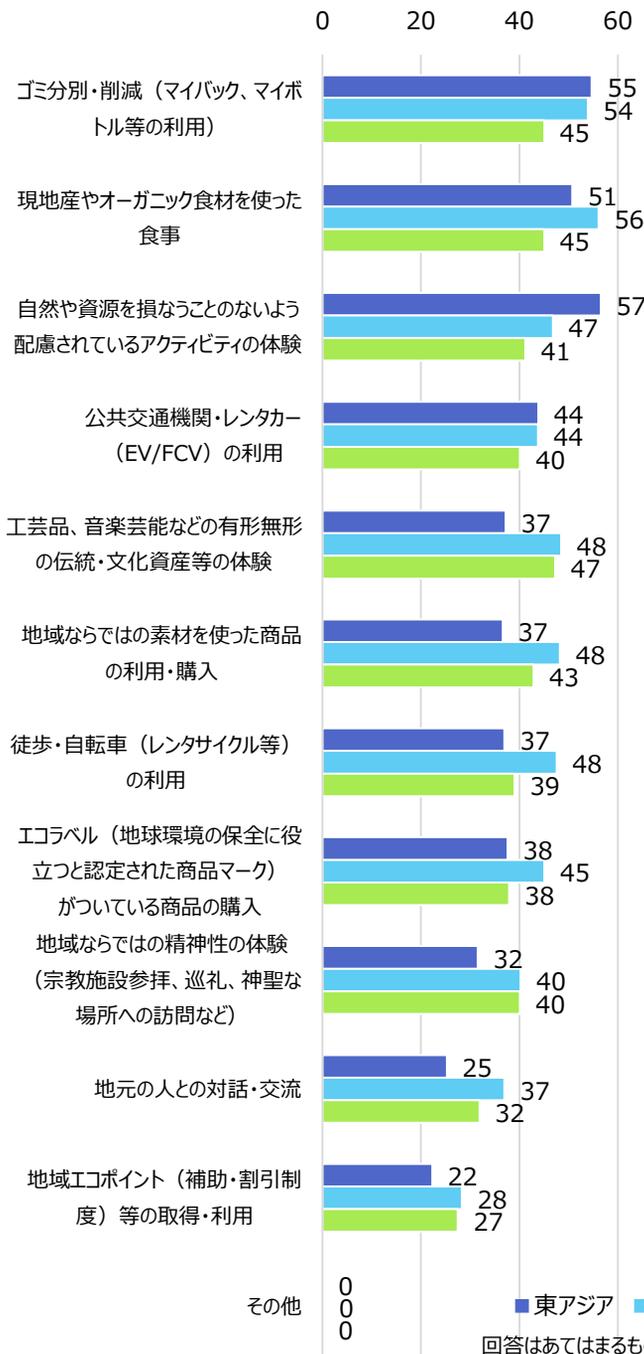
- サステナブルツーリズムとは、UNWTOによると、「訪問客、産業、環境、受入地域の需要に適合しつつ、現在と未来の経済、社会、環境への影響に十分配慮した観光」と定義されている。
- 元々は、1980年代にマストツーリズムの普及に伴う観光地域の環境や自然が損なわれていることに対する問題意識から、1988年にUNWTOによって定義づけられたことが始まりであるが、近年、オーバーツーリズムの問題の顕在化、SDGsの浸透、カーボンニュートラルの取組加速、等を背景に注目されている旅行概念であり、現在は欧州諸国中心に普及しているが、今後は世界的に普及が進む可能性がある。



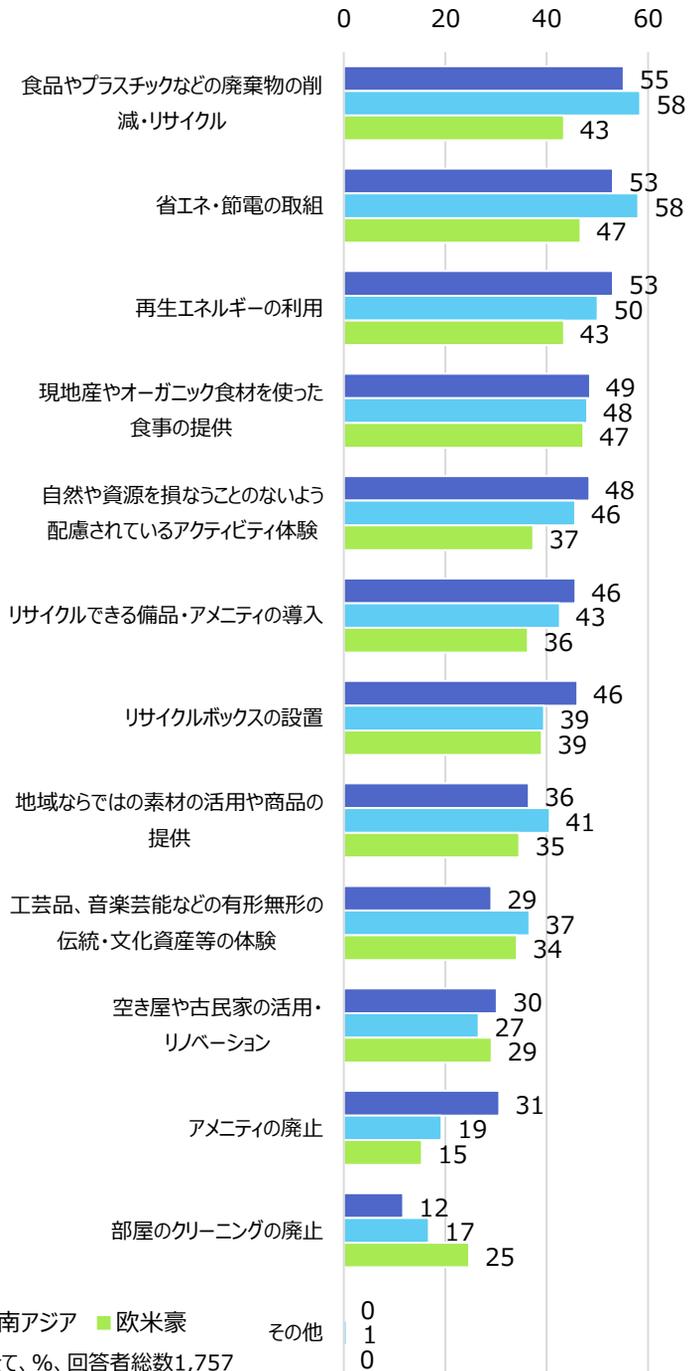
海外旅行先や宿泊施設に求める「サステナブルな取組」

- 海外旅行先で実施したい「サステナブルな取組」として、東アジアでは「自然や資源を損なうことのないよう配慮されているアクティビティの体験」、東南アジアでは「現地産やオーガニック食材を使った食事」、欧米豪では「工芸品、音楽芸能などの有形無形の伝統・文化資産等の体験」を希望する割合が最も高かった。
- 宿泊施設に求める「サステナブルな取組」として、東アジアと東南アジアでは「食品やプラスチックなどの廃棄物の削減・リサイクル」、欧米豪では「現地産やオーガニック食材を使った食事の提供」を希望する割合が最も高かった。

海外旅行先で実施したい
「サステナブルな取組」



宿泊施設に求める「サステナブルな取組」

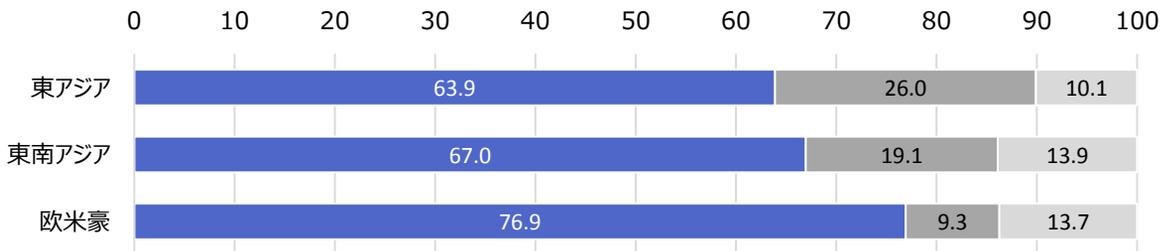


回答はあてはまるもの全て、%、回答者総数1,757

「サステナブルな取組」を行っている宿泊施設に泊まる場合、通常より予算を増やしてよいか

- 訪問先や宿泊地検討の際に「サステナブルな取組を行っていること」を「重視する」又は「どちらかといえば重視する」と回答した人について、「サステナブルな取組」を行っている宿泊施設に泊まる場合、東アジアでは63.9%、東南アジアでは67.0%、欧米豪では76.9%の人が予算を増やして「よいと思う」と回答した。

「サステナブルな取組」を行っている宿泊施設に泊まる場合
通常より予算を増やしてもよいか



■ よいと思う ■ よいと思わない ■ わからない 回答はひとつ、%、回答者総数1,757

参考) サステナブルツーリズムの潮流を踏まえた各事業者の動き

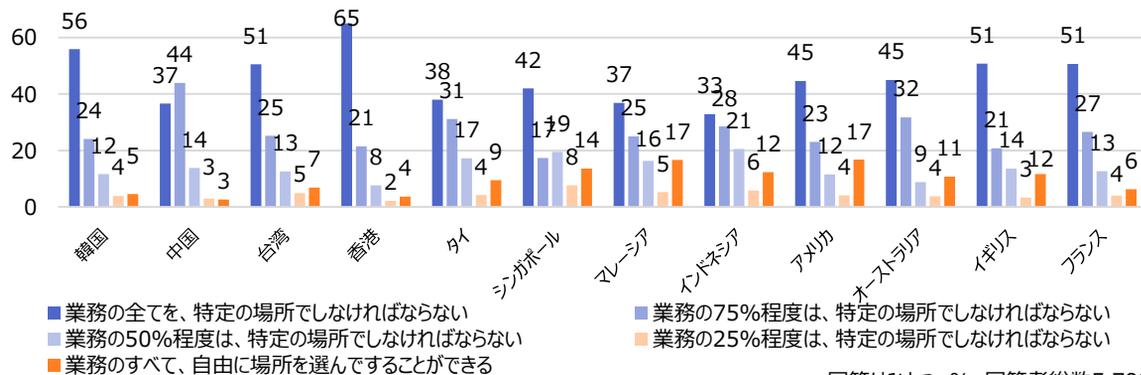
- 宿泊予約サイトを運営するBooking.com社では、旅行者がサステナブルな取組を行う宿泊施設を検索しやすいように、2021年11月よりサステナブルな取組を進めている宿泊施設に対し、「サステナブル・トラベル」バッジを付与するサービスを開始した。「サステナブル・トラベル」の絞り込み検索機能を搭載し、サステナブルな宿泊施設の検索を容易にする環境を整えている。
- Google社では、地図アプリ「グーグルマップ」にて、環境負荷が低い経路を優先的に表示する取組をアメリカで2021年10月より開始している。2022年からは欧州や他地域への展開も予定しており、今後は交通手段においても、環境負荷の少ない交通を選択しやすい環境が整うことが見込まれる。
- 上記のようなサステナブルな取組の可視化の動きは、旅行者のサステナブル意識醸成に繋がるだけでなく、事業者側にとってもサステナブルな取組を実施するきっかけとなるため、今後サステナブルツーリズムが普及する一つの要因となることが期待される。

事業主体	対象	取組概要
Booking.com	旅行者	<ul style="list-style-type: none"> ● サステナブルな取組を進めている宿泊施設に対し、「サステナブル・トラベル」バッジを付与 ● サステナブルな宿泊施設の検索を容易にするため、「サステナブル・トラベル」の絞り込み検索機能を導入
米グーグル	グーグル利用者	<ul style="list-style-type: none"> ● 地図アプリ「グーグルマップ」を更新し、環境負荷が低い経路を優先的に表示すると発表。 ● 2021年10月6日～米国で開始、2022年から欧州や他の地域へ展開予定。 ● グーグルマップを利用した自動車の経路検索：CO2排出量が少ない「エコフレンドリールート」を優先表示。 ● 「グーグルマップ」以外の航空券の検索やショッピングなどのサービス：CO2排出量が少ないサービスや製品を見つけやすくする。

5. ワークーション

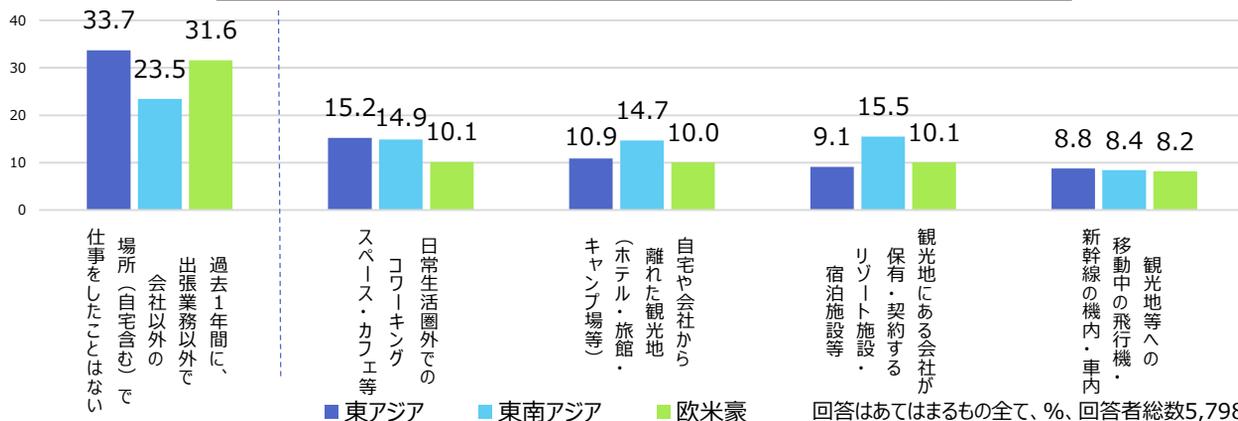
- 特定の場所で業務が求められる割合をエリア別で見ると、東南アジア<欧米豪>東アジアの順に高くなっている。(上段図)
- 過去1年間に会社以外で仕事をしたことがない人の割合は3割程度だった一方で、ワークーションに相当する場所で仕事を行った人の割合はそれぞれ1割程度であった。(中段図)
- 旅行先で仕事をするうえで最も求められている設備は、Wi-Fi設備であった。(下段図)

業務を特定の場所でしなけいばいけいないか



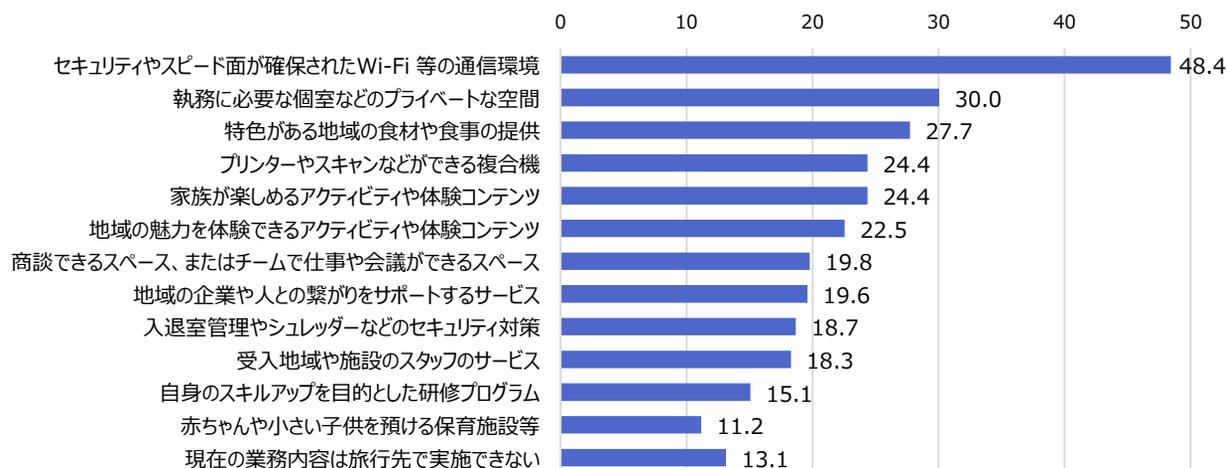
回答はひとつ、%、回答者総数5,798

過去1年間に職場以外で仕事をしたことがある場所 (メール・電話は除く)



回答はあてはまるもの全て、%、回答者総数5,798

旅行先で仕事をするうえで地域にほい設備



回答はあてはまるもの全て、%、回答者総数5,798



©Development Bank of Japan Inc.2022

本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引等を勧誘するものではありません。本資料は当行が信頼に足ると判断した情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性・確実性を保証するものではありません。本資料のご利用に際しましては、ご自身のご判断でなされますようお願い致します。本資料は著作物であり、著作権法に基づき保護されています。本資料の全文または一部を転載・複製する際は、著作権者の許諾が必要ですので、当行までご連絡下さい。著作権法の定めに従い引用・転載・複製する際には、必ず、『出所：日本政策投資銀行』と明記して下さい。

（お問い合わせ先）

株式会社日本政策投資銀行 北海道支店 企画調査課

〒060-0003

札幌市中央区北3条西4丁目1 日本生命札幌ビル4F

Tel：011-241-4117

E-mail：hkinfo@dbj.jp

HP： <http://www.dbj.jp/co/info/branchnews/hokkaido/>